第4章　地域別構想

1　厚木地域……66
2　依知地域……74
3　睦合地域……82
4　荻野地域……89
5　小鮎地域……96
6　南毛利地域……103
7　玉川地域……111
8　森の里地域……117
9　相川地域……123

地域別構想は、第 10 次総合計画基本計画の地区別プランにおける 15 地区を基本に、都市計画における面的な整備状況、地域の歴史的な成り立ちや生活圏等を考慮して九つの地域に設定しています。

１　厚木地域（厚木北地区・厚木南地区）

（１）厚木地域の現状

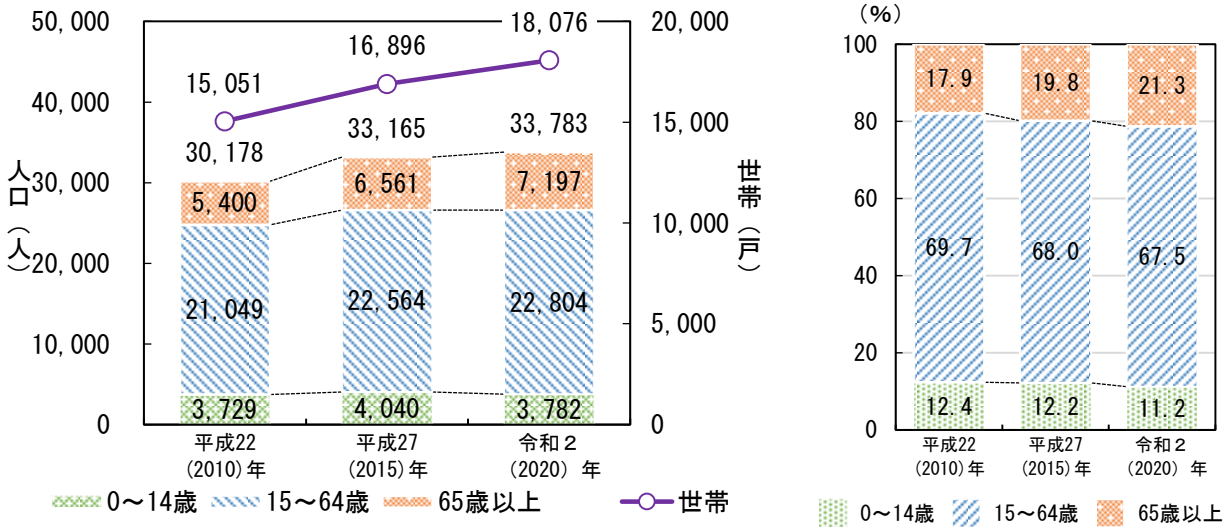
ア　地勢

- 本地域は、本市の中心市街地を形成しており、商業・業務、行政及び文化などの多様な機能が集中しています。
- 相模川や小鮎川、三川合流点など貴重な自然資源を有しており、市民の憩いの場となっています。
- 本厚木駅周辺は商業・業務、行政及び文化などの中心地として成熟した市街地を形成しています。また、令和３（2021）年には本厚木駅南口における市街地再開発事業が完了し、今後は中町第２－２地区における市庁舎等の複合施設の整備が予定されるなど、中心市街地にふさわしい新たなまちづくりが進められています。

イ　人口

- 本地域の人口は、33,783 人です。人口、世帯数ともに増加傾向にありますが、人口の伸びは鈍化しています。
- 高齢者の人口割合は 21.3%と市平均（25.8%）に比べて低くなっています。また、生産年齢人口の割合は市平均（62.2%）に比べ高くなっています。
- 地域別に見ると、厚木北地区に比べ厚木南地区の高齢者の割合が高く、年少者の割合が低くなっています。

■　厚木地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



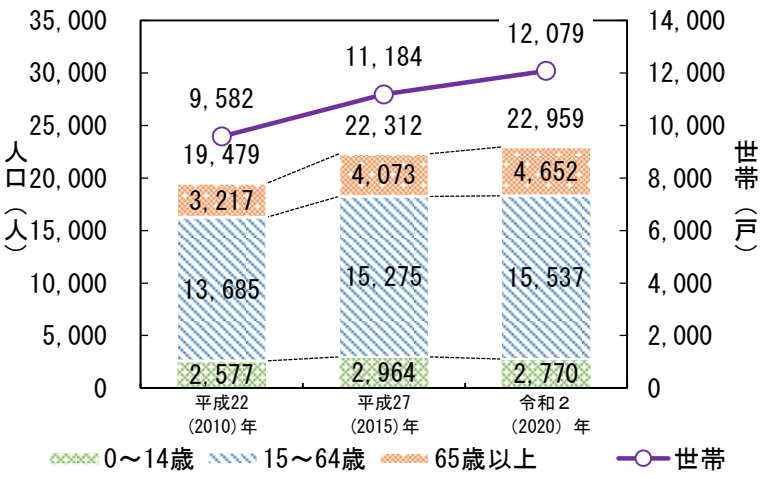
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

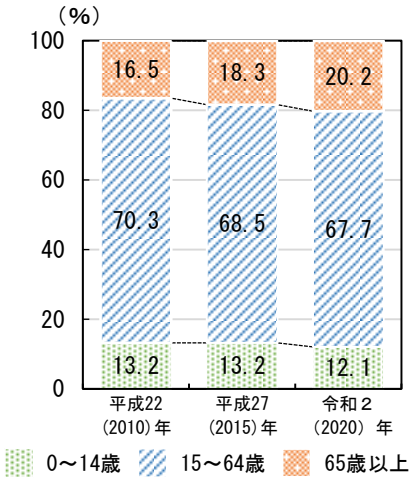
■　厚木市と厚木地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体	12.0%	62.2%	25.8%
厚木地域	11.2%	67.5%	21.3%
厚木北地区	12.1%	67.7%	20.2%
厚木南地区	9.4%	67.1%	23.5%

出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

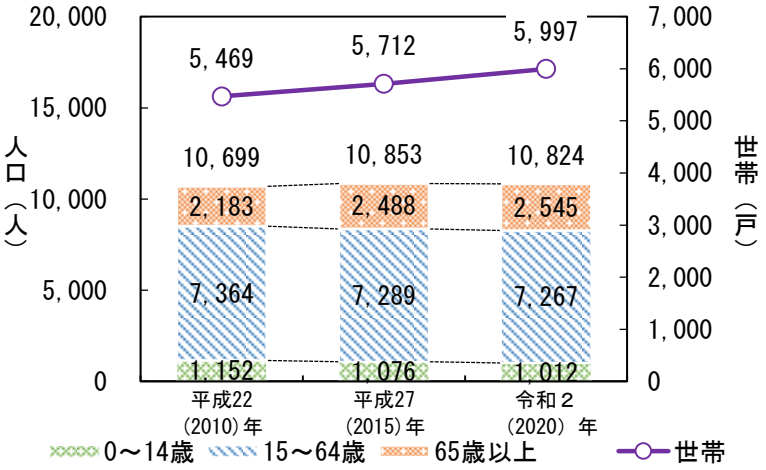
■　厚木北地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）

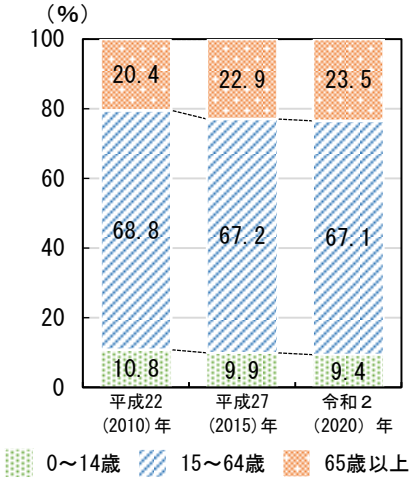




出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　厚木南地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



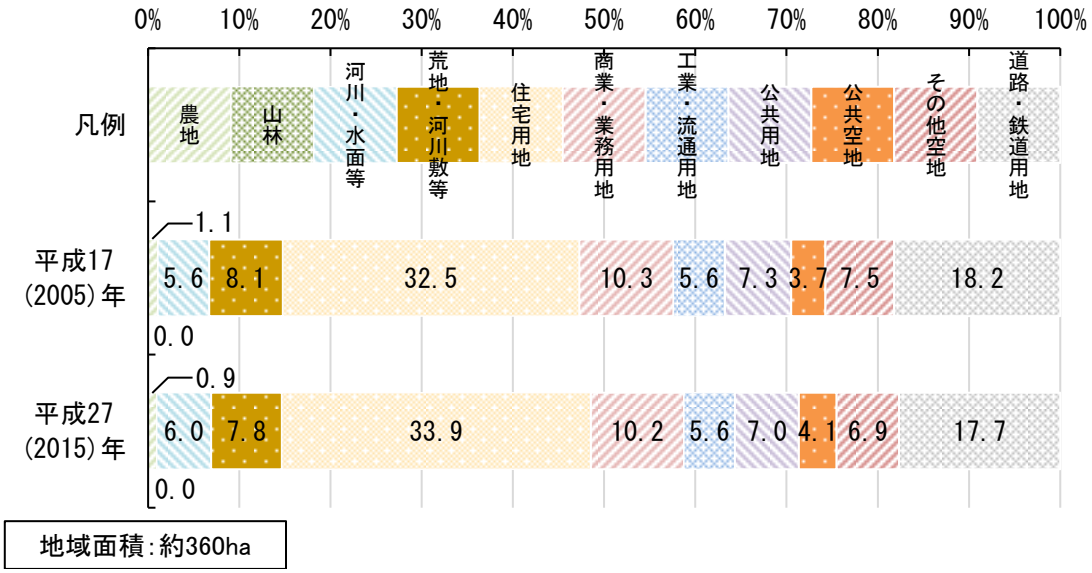


出典：住民基本台帳（各年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は住宅用地が地域の約３割、商業・業務用地が約１割を占めています。

■　**土地利用構成比の推移**



出典：都市計画基礎調査

（２）厚木地域の魅力

ア　本厚木駅周辺のにぎわい、充実した交通結節機能

- 本厚木駅周辺は、商業・業務、行政及び文化などの多様な都市機能が集積しており、市民や来訪者が集い、にぎわいや交流の場が形成されています。
- 本厚木駅や厚木バスセンターは、市民や来訪者の移動手段となる鉄道、路線バス及びタクシーなどの多様な交通の結節点となっており、本市の交通の要衝となっています。
- 本厚木駅南口の市街地再開発事業が完了し、更なるにぎわいの創出や交通利便性の向上が期待されます。

イ　利便性の高い市街地

- 本地域は、１日の乗降客数が 15 万人を超える本厚木駅を有し、東京都心や箱根方面へのアクセスが容易です。中心市街地には商業施設等が充実しており、交通利便性、生活利便性共に非常に高い地域となっています。

ウ　自然環境との触れ合い

- 相模川や小鮎川、本市の桜の名所でもある三川合流点や相模川ローズガーデンなどが中心市街地に近接しており、豊かな自然環境との触れ合いの場が形成されています。

（３）厚木地域の課題

ア　都市中心拠点としての更なるにぎわい、生活の質の向上

- 本厚木駅周辺は本市の中心市街地を形成し、多くの商業・業務施設等が立地しています。しかしながら、土地区画整理事業施行から約 60 年が経過し、更新時期を迎える建築物もあります。また、アンケート調査によると、市民の半数以上が中心市街地の再整備による活性化を望んでいます。
  このため、厚木市の顔となる都市中心拠点として、これまで形成されてきた街並みなどを活用した都市機能の更新等により、新たな魅力の創造や更なるにぎわいの創出が必要です。
- 子育て世帯や高齢者など多様な居住ニーズに対応するため、バリアフリー化など高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが利用しやすい安心で利便性の高い市街地の形成が必要です。
- 道路が狭く、住宅が密集している地区もあるため、防災性の向上など安心で安全な住宅地の形成が必要です。

イ　交通環境の改善

- 本厚木駅周辺は、本市の重要な交通の要衝となっていますが、バス乗り場の分散や、本厚木駅北口駅前広場では歩行者とバスを待つ人が錯綜するなどの課題があります。このため、市民や来訪者が利用しやすい交通環境として交通結節機能の強化が必要です。
- 水引交差点や厚木市立病院前交差点、文化会館前交差点などでは、ピーク時に交通混雑が見られることから、混雑緩和に向けた取組が必要です。
- （都）旭町松枝町線など交通量が多く、歩道の整備が不十分な道路については、歩行者や自転車の安全性の確保が必要です。

ウ　自然との共存・調和

- 相模川や小鮎川などに隣接する本地域の大部分は、洪水浸水想定区域に指定されています。このため、洪水など災害への備えが必要です。
- 本地域は、緑化重点地区に指定されており、行政や民間による新たな緑の創出が必要です。

（４）厚木地域の基本目標

●中心市街地のにぎわいと居心地が良く歩きたくなるまちづくり
・厚木の顔としてふさわしい多様な都市機能の充実・再生
・車中心から人中心の都市空間への転換と回遊性の向上

●誰もが快適に安心して暮らせる人にやさしい住環境づくり
・安全で人にやさしい道路交通環境の形成
・利便性や防災性の高い住環境の形成

●触れ合いの場と水と緑のあるまちづくり
・相模川を活用した親水・憩いの場の形成と回遊性のあるまちづくり
・市民協働の緑化推進による潤いある市街地景観の形成

（５）厚木地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）中心商業･業務地（中心市街地）

- 本厚木駅周辺では、都市中心拠点として、商業・業務、行政及び文化などの多様な都市機能の集積や交通結節機能の充実を図るとともに、居心地が良く、歩きたくなる中心市街地を目指します。
- 中町第２-２地区では、市庁舎等の行政機能や図書館等の文化機能などが集積した複合施設を整備するとともに、バスセンターの再整備を推進します。また、現市役所本庁舎跡地は、中心市街地の回遊性の向上などに寄与する土地利用を検討します。
- 本厚木駅北口周辺では、市街地再開発事業等により、商業・業務機能などの都市機能の更新を推進するとともに、バス発着機能の強化、バス待ち環境の充実及びバス優先策の拡充など公共交通を優先した環境整備を推進します。
- 本厚木駅西側では、企業送迎バスや自家用車による送迎需要等に対応する交通ターミナルの検討を進めます。
- 駐車場の集約や自転車走行空間の確保、都市サインの整備など、回遊性の向上に取り組みます。
- 都市機能の更新や憩いの空間創出などのため、駐車場などの低未利用地の活用に取り組みます。

（イ）商業主体の複合市街地

- 商業主体の複合市街地では、商業・業務機能等の集積と利便性の高い住環境を備えた市街地を形成します。
- 再開発促進地区である東部北地区及び東部南地区では、既存建築物の建て替えや市街地再開発事業等により住宅を中心とした土地の有効利用と都市機能の更新を図るとともに不燃化を進めます。

（ウ）住宅地

- 中心市街地周辺は、住宅と商業及び文化機能等の複合した都市型住宅市街地を形成します。中低層住宅地では、過度な宅地の細分化を防止するとともに、マンションなどの中層建築物と低層住宅を主体とした市街地を形成します。
- 消防活動や緊急車両の通行に支障を来すおそれのある狭あい道路の拡幅など、生活道路の整備を進めます。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。

（エ）産業系用地

- 既存企業の操業環境の維持・向上を進めます。

イ　交通利便性の向上

- 市中心部と市域南部との交通の円滑化や文化会館前交差点の混雑緩和を図るため、（都）本厚木下津古久線の整備を推進します。
- 中町第２-２地区の整備と合わせ、駅周辺の交通の円滑化を図るため、（都）中町北停車場線を始めとした関連道路の整備を推進します。
- 安全な歩行空間を確保するため、（都）旭町松枝町線の整備を促進します。
- 水引交差点や厚木市立病院前交差点、文化会館前交差点などについては、交差点改良など交通混雑の緩和に向けた取組を進めます。
- 歩行者や自転車が安全に移動できる道路整備やバリアフリー化を推進します。

ウ　緑の保全・整備

- 三川合流点では、水辺と人との触れ合いをより身近に感じることができる憩いと活動の場となる水辺交流拠点の計画を推進します。また中心市街地との回遊性の向上を図ります。
- 相模川、小鮎川では、多様な水生生物等が生息する水辺環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化や歩行空間の確保を促進します。
- 緑化重点地区として、市民、事業者、行政等が連携して緑化を進めます。

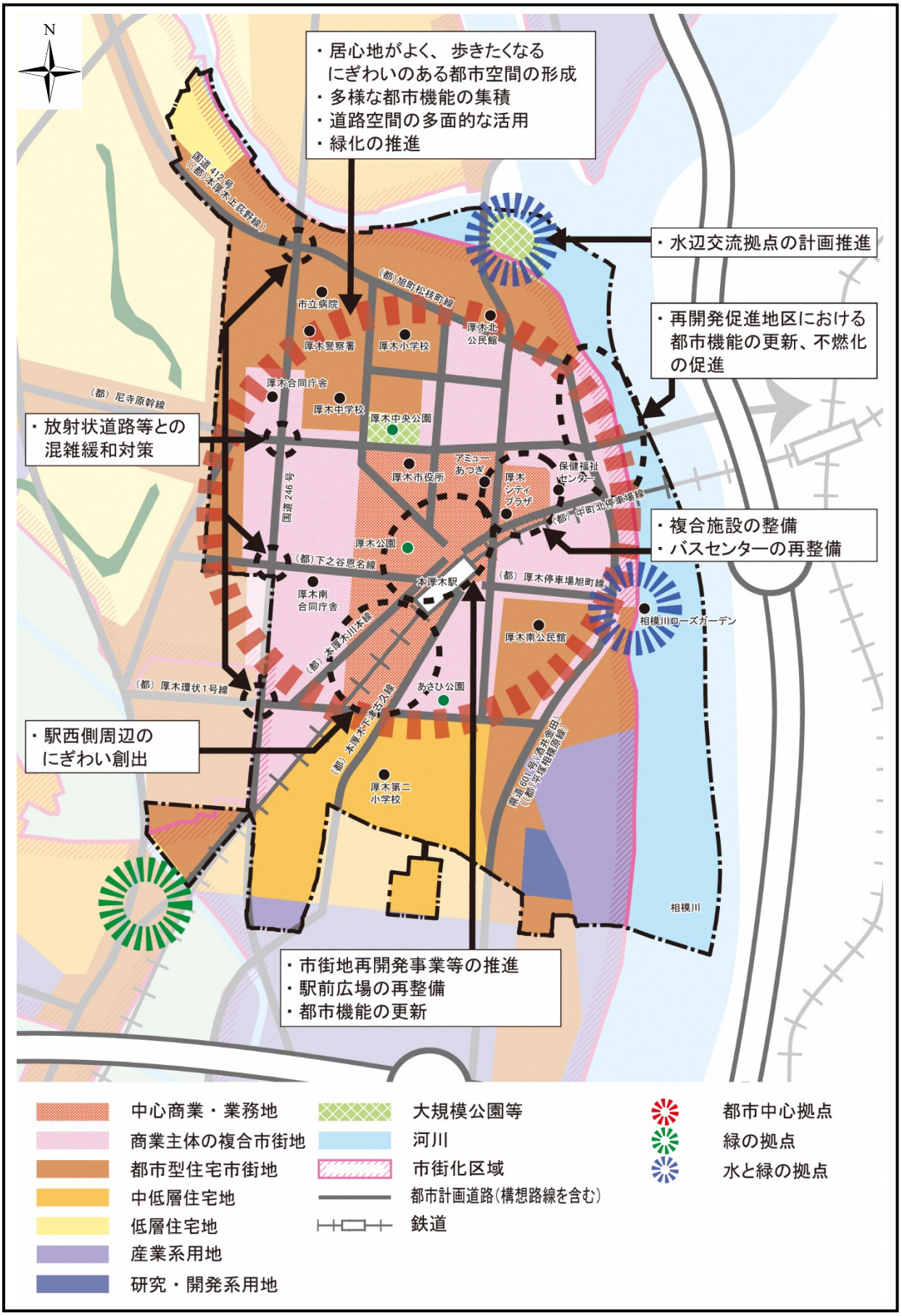
エ　災害に強いまちの形成

- 相模川、小鮎川では、自然災害に備え計画的な治水事業を促進するとともに、浸水時でも都市機能を維持する対策を進めます。
- 洪水浸水等の発生が想定される地域では、ハザードマップ等を活用し、市民に対

して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。

- 本厚木駅を中心とした厚木排水区においては、厚木北地区に雨水貯留管を整備し、内水による被害軽減対策を推進します。
- 市街地再開発事業や既存施設等を活用して、一時滞在施設として利用可能な空間を確保するなど、帰宅困難者対策に取り組みます。
- 建築物の不燃化・耐震化を促進するとともに、一時避難場所などに活用できる公園などの防災空間の確保等に取り組み、安心・安全な住宅地を形成します。

＜厚木地域のまちづくり方針図＞



２ 依知地域（依知北地区・依知南地区）

（１）依知地域の現状

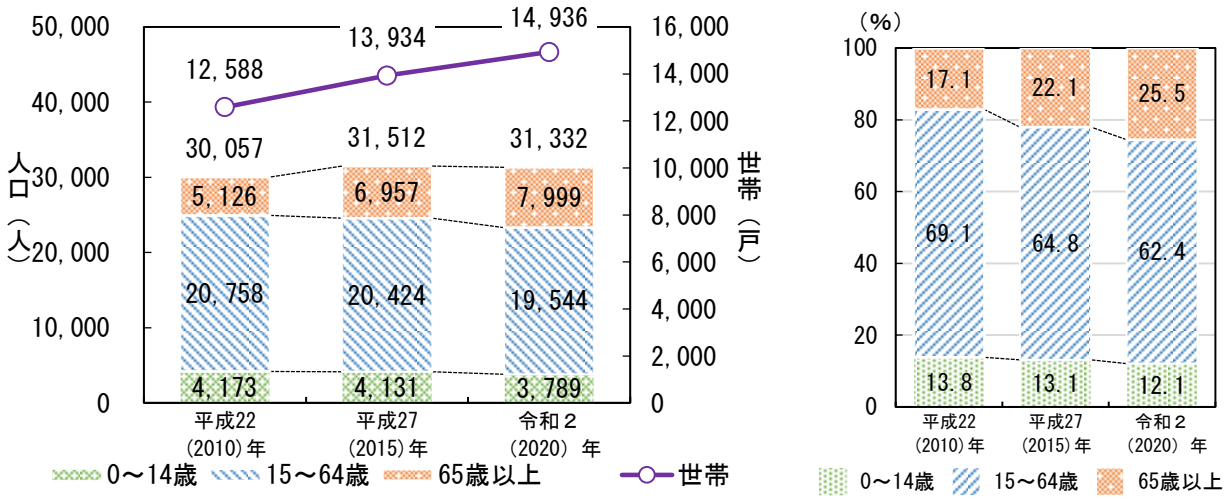
ア 地勢

- 本地域は、本市の北東部に位置し、河川に沿って開けた平地や台地を有しています。
- 中津原台地沿いの斜面緑地などの豊かな緑に加え、相模川、中津川及びそれらの周辺に広がる一団の水田などを有し、自然環境に恵まれています。
- 国道 129 号の周辺に市街地が形成されてきました。土地区画整理事業により、内陸工業団地や、下依知地区の住宅団地が整備されています。

イ 人口

- 本地域の人口は 31,332 人です。世帯数は増加傾向にありますが、人口の伸びは横ばいです。
- 高齢者は増加していますが、高齢化率は 25.5%と市平均（25.8%）と同程度となっています。

■　依知地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



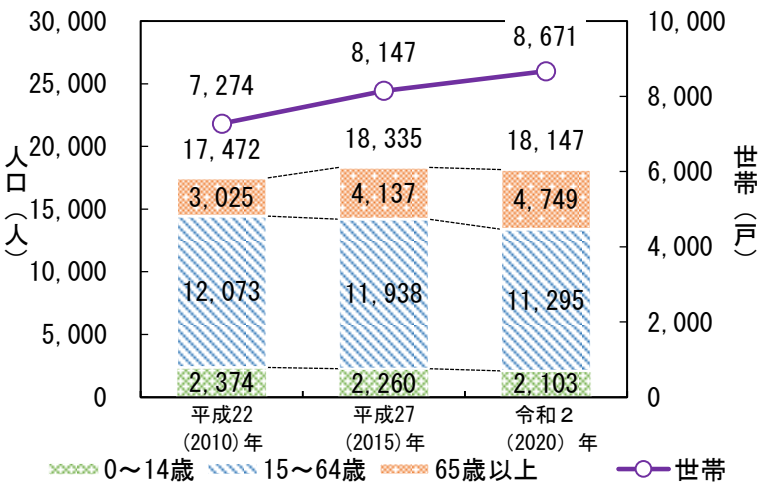
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

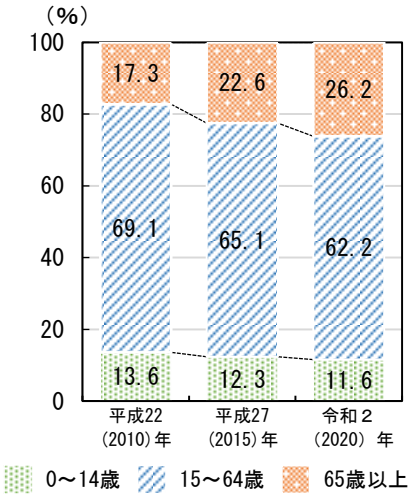
■　厚木市と依知地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体	12.0%	62.2%	25.8%
依知地域	12.1%	62.4%	25.5%
依知北地区	11.6%	62.2%	26.2%
依知南地区	12.8%	62.6%	24.6%

出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

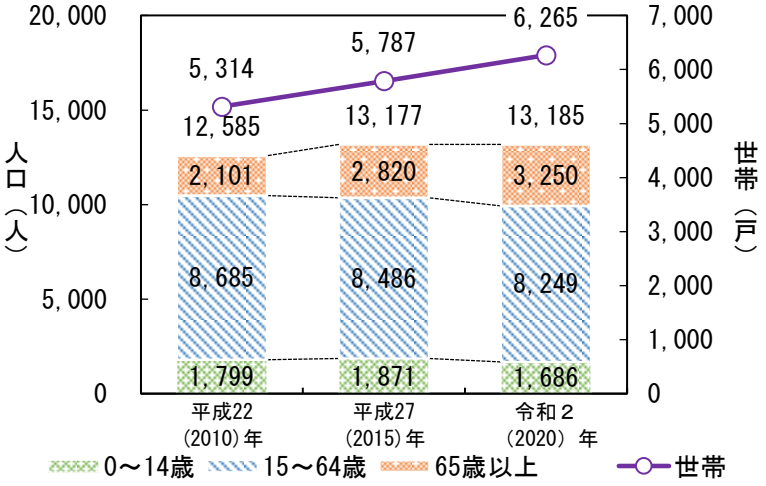
■　依知北地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）

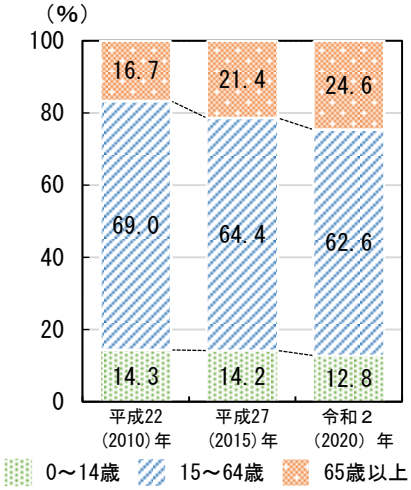




出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　依知南地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



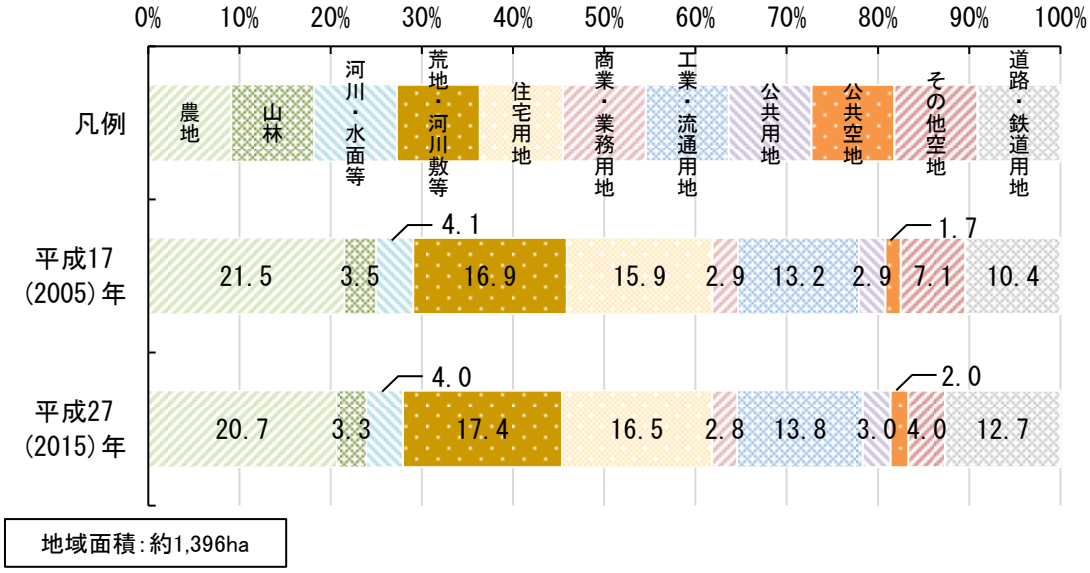


出典：住民基本台帳（各年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は、住宅用地、工業・流通用地などの都市的土地利用が、国道 129 号沿いなどの市街化区域に多く見られます。農地は地域の約２割を占めています。

■　土地利用構成比の推移



出典：都市計画基礎調査

（２）依知地域の魅力

ア　広域道路ネットワークの利便性が高い立地特性

- 本地域内には、圏央厚木インターチェンジや厚木 PA スマートインターチェンジが開通しており、広域道路ネットワークの利便性が高い地域です。

イ　国道 129 号の充実したバス路線

- 国道 129 号では、１日 100 本程度の路線バスが運行されており、地域住民などの重要な移動手段となっています。

ウ　豊かな自然環境

- 相模川、中津川には、市民の憩いの場となる水辺空間が形成されています。
- 相模川、中津川に沿って形成されている田園景観や斜面緑地などの豊かな自然環境を有しています。

エ　優れた産業の集積

- 内陸工業団地や金田地区などに多くの産業が集積しています。

（３）依知地域の課題

ア　圏央厚木インターチェンジや厚木 PA スマートインターチェンジ等をいかしたまちづくり

- 圏央厚木インターチェンジや厚木 PA スマートインターチェンジの開通により、広域道路ネットワークの利便性が高まり、産業用地など新たな開発需要の拡大が想定されます。
  このため、本地域では、広域道路ネットワークの優位性をいかし、周辺の自然環境との調和を図りながら、地域産業の活性化、新たな産業用地の創出及び地域の活力が向上するためのまちづくりが必要です。

イ　住環境の維持・改善

- 本地域は、国道 129 号沿道の住宅地や農地と住宅が混在する住宅地、田園景観と調和した集落地など、異なる顔を持つ住宅地が形成されています。
  このため、地区の特性に合わせたきめ細かな取組による住環境の維持・改善が必要です。
- 本地域では商業施設等の不足により、買い物が不便な地域があります。
  このため、日常的な買い物に困ることのないよう、生活利便性を向上するための取組が必要です。

ウ　交通環境の改善

- 国道 129 号と国道 246 号の交差部では交通混雑が見られ、路線バスの遅延などが発生しています。
  このため、交通混雑を緩和することで、市民等の快適な移動の確保や産業が活性化するための取組が必要です。
- 路線バスなどの公共交通の利用が不便な地域も見られるため、高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが不自由なく移動できる交通環境づくりも必要です。
- 通勤、通学時間帯には、生活道路をう回路として通行する車両が多いため、児童・生徒を含めた歩行者の安全を確保する必要があります。

エ　自然との共存・調和

- 本地域が有する豊かな自然は、市民にゆとりと潤いのある生活や生物の貴重な生息の場などを提供しています。しかしながら、下依知地区などの市街化調整区域の農地では、開発等により田園景観が損なわれつつあります。
  このため、この豊かな自然を保全し、未来に継承していくことが必要です。
- 本地域では、相模川や中津川沿いの広い地域が洪水浸水想定区域に含まれており、一部地域においては家屋倒壊等氾濫想定区域となっております。また、地域内には土砂災害の発生が想定される区域等もあります。河川に囲まれた地形のため、災害時の応急活動に対する対策が重要となり、自然と共存していくための備えが必要となっています。

（４）依知地域の基本目標

●交通の利便性をいかした新たな活力を創り出すまちづくり
・インターチェンジをいかした拠点形成に向けた計画的な土地利用の誘導
・国道 129 号沿道への生活利便施設の誘導と交通利便性の向上

●防災機能が充実したまちづくり
・北部地域の防災拠点の形成
・利便性・防災性の向上を目指した道路等の都市基盤の整備

●水と緑の豊かな自然環境をいかしたまちづくり
・相模川及び中津川を活用した親水・憩いの場づくり
・河川沿いの田園や斜面緑地など自然環境の保全

（５）依知地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 低層住宅地では、生活道路等の整備による安全の確保や生活利便性の確保により、良好な住環境を形成します。
- 国道 129 号沿道では、周辺住宅地の生活を支える商業施設などの生活利便施設の立地を促進し、地域生活拠点の形成を図ります。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。
- 市街化調整区域の集落地では、周辺の自然環境と調和した住環境の保全や生活利便性の確保等により、地域活力の維持・向上を図るとともに、良好な田園景観を形成します。

（イ）東部拠点

- 東部拠点では、広域的な道路ネットワークの優位性をいかし、周辺の住環境や自然環境と調和した工業系の産業を主体とした市街地を形成するとともに、地域の活力を創出する土地利用を推進します。
- 市北部地域の防災力を高めるとともに、地域住民の憩いやレクリエーションの場を確保するため、（仮称）北部地区公園の整備を進めます。

（ウ）産業系用地

- 圏央厚木インターチェンジなどへの近接性をいかし、内陸工業団地や金田地区などの産業集積を維持するとともに、新たな企業の立地を促進します。
- 金田地区では、産業地としての環境整備を目指します。
- 内陸工業団地周辺や中依知地区の国道 129 号沿道など住宅と工業が混在する地区では、用途整序を検討するとともに、工場の緑化や緩衝緑地等の整備を促進します。

（エ）土地利用検討ゾーン

- 関口・山際地区の市街化調整区域は、東部拠点として計画的な土地利用の誘導を図るとともに、都市的な土地利用への転換だけでなく、自然環境との調和・連携を図り、農地を含む自然的な土地利用の活用など、地域特性に応じた土地利用の検討を進めます。

イ　交通利便性の向上

- 都市計画道路など地域の骨格となる道路ネットワークの整備を推進し、交通混雑の緩和及び歩行者や自転車の安全性の確保を図るとともに、生活道路をう回路として通行する車両の抑制を図ります。
- 金田地区の交通混雑の緩和、安全の確保を図るため、県道 601 号（酒井金田）の整備を促進します。
- （都）厚木環状１号線及び（都）厚木環状４号線の延伸の検討を進めます。
- 国道 129 号などの主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。
- 路線バスの利用が困難な地域や、日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

ウ　緑の保全・整備

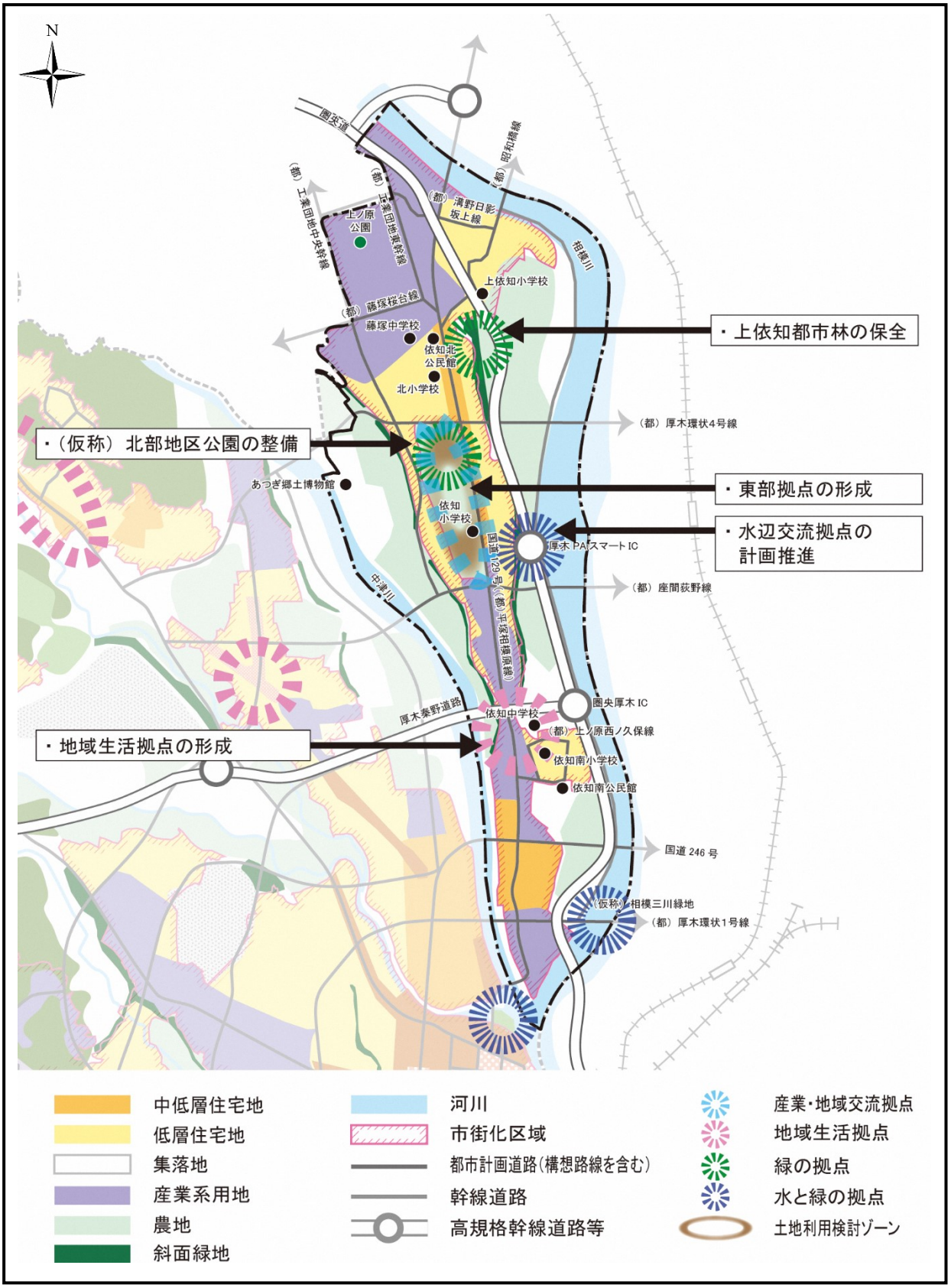
- 相模川や中津川では、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化や歩行空間の確保等を進めます。
- 厚木 PA スマートインターチェンジ周辺では、水辺と人との触れ合いをより身近にできる憩いと活動の場として水と緑の拠点の計画を進めます。
- 相模川沿いに、（仮称）相模三川緑地の計画を促進します。
- 上依知小学校周辺の斜面緑地は、都市林として保全・利用するための整備を進めます。また、河川沿いの斜面緑地は積極的な保全を進めます。
- 相模川や中津川沿いに広がる市街化調整区域の農地は、営農環境の維持・向上を進めながら、田園景観を保全するとともに、無秩序な農地転用が進みつつある地区においては、農地や自然環境との調和を図りながら、市民との協働による秩序ある土地利用の誘導に取り組みます。

エ　災害に強いまちの形成

- 相模川や中津川では、自然災害に備えた計画的な治水事業を促進します。
- 大規模な洪水浸水の発生が想定される上依知地区の一部、猿ヶ島地区及び金田地区や土砂災害の発生が想定される地区では、ハザードマップ等を活用し、市民へ災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。
- 金田地区に、平時には市民の憩いの場となる緑地として活用できる災害廃棄物

一時保管場所を、新たなごみ中間処理施設と一体的に整備を進め、災害からの早期復旧・復興に取り組みます。

＜依知地域のまちづくり方針図＞



３ 睦合地域（睦合北地区・睦合南地区・睦合西地区）

（１）睦合地域の現状

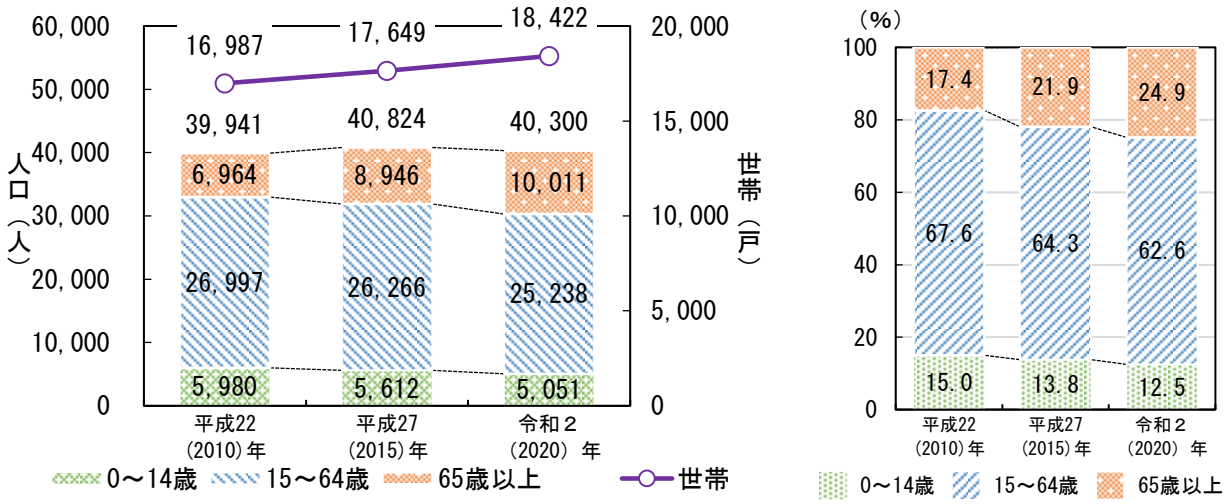
ア 地勢

- 本地域は、本市の北部に位置し、河川に沿って開けた平地や台地を有しています。
- 荻野台地沿いの斜面緑地や、中津川、小鮎川、荻野川及びそれらの周辺に広がる一団の水田など優れた自然環境を有しています。
- 市道妻田中荻野線（旧国道 412 号）沿いや妻田地区などを始め、宅地化が進んできました。また、林地区には、土地区画整理事業により良好な交通環境を持つ住宅市街地が整備されています。

イ 人口

- 本地域の人口は、40,300 人です。人口の推移は横ばいですが、世帯数は増加しています。
- 高齢者は増加していますが、高齢化率は 24.9%と市平均（25.8%）よりもやや低くなっています。

■ 睦合地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



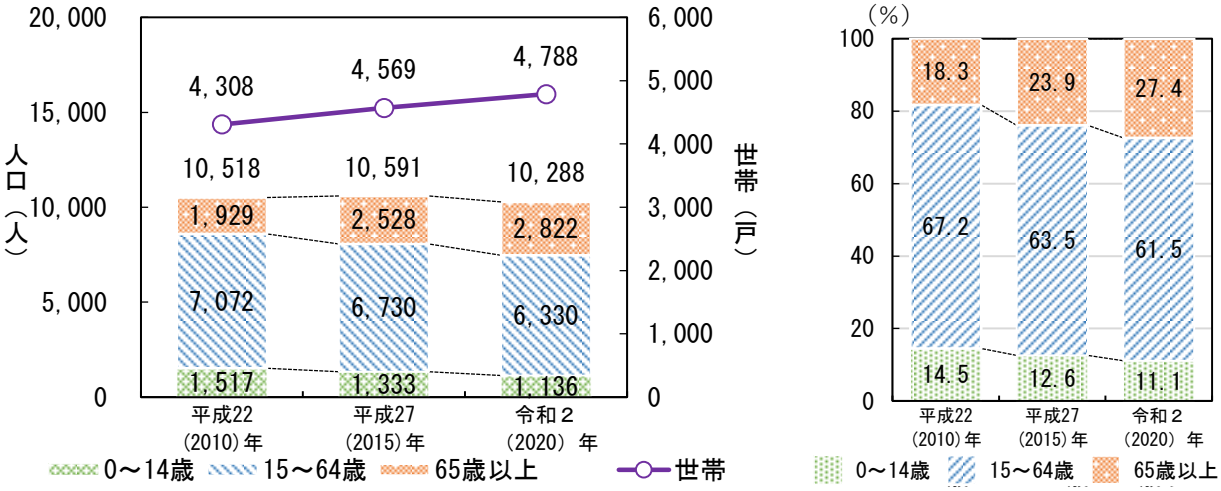
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■ 厚木市と睦合地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

		0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体		12.0%	62.2%	25.8%
睦合地域		12.5%	62.6%	24.9%
	睦合北地区	11.1%	61.5%	27.4%
	睦合南地区	13.0%	62.9%	24.1%
	睦合西地区	13.1%	63.3%	23.6%

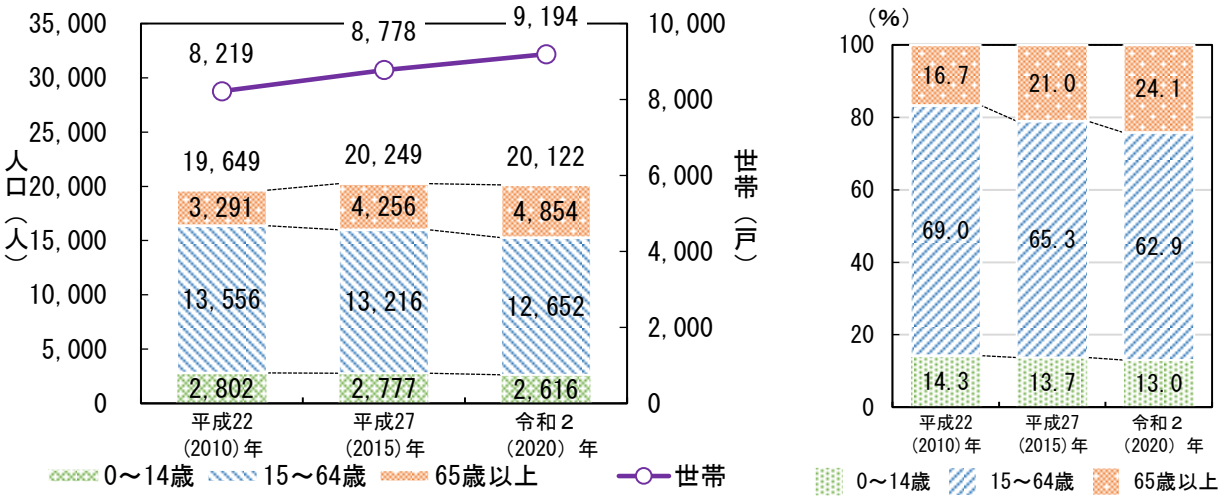
出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

■　睦合北地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



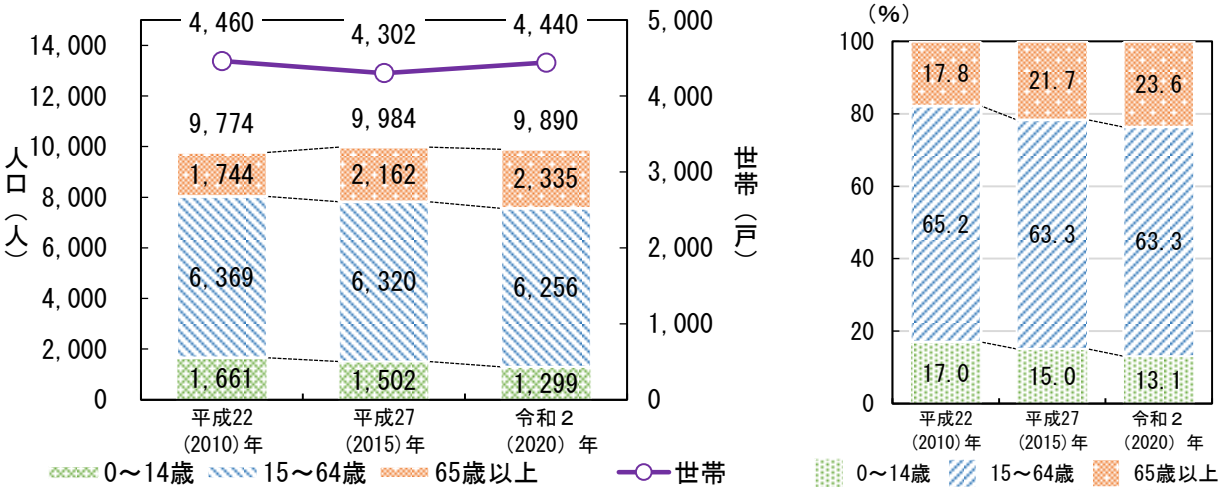
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　睦合南地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　睦合西地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）

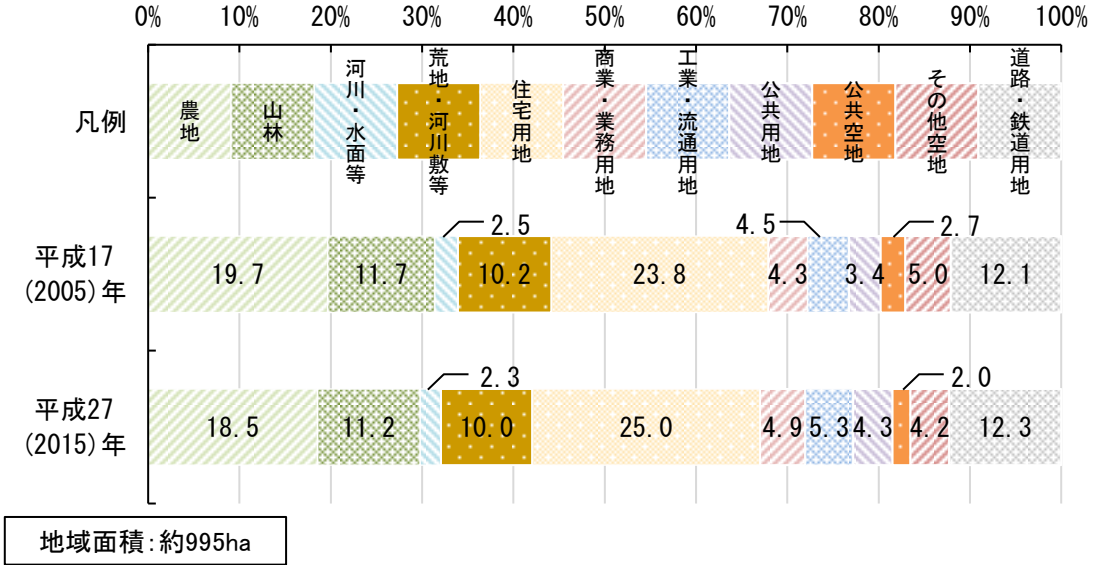


出典：住民基本台帳（各年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は、住宅用地が地域の約３割を占めていますが、農地も約２割と多く見られます。

■　土地利用構成比の推移



出典：都市計画基礎調査

（２）睦合地域の魅力

ア　豊かな自然環境

- 中津川、小鮎川及び荻野川には、市民の憩いの場となる水辺空間が形成されています。
- 中津川、小鮎川及び荻野川に沿って形成されている田園景観、三田地区の斜面緑地や鳶尾山周辺の緑地など豊かな自然環境を有しています。

イ　市道妻田中荻野線などの充実したバス路線

- 本厚木駅を発着点とし、市道妻田中荻野線（旧国道 412 号）を通るバス路線では、１日 100 本程度の路線バスが運行されており、地域住民などの重要な移動手段となっています。
- 市道妻田中荻野線などのバス路線や国道 412 号沿いには、地域の生活を支える生活利便施設等が立地しています。

ウ（仮称）厚木北インターチェンジに近接した立地特性

- 計画されている（仮称）厚木北インターチェンジが整備されることにより、広域道路ネットワークの更なる拡大が期待されています。

（３）睦合地域の課題

ア　自然との共存・調和

- 本地域を流れる中津川などの豊かな自然は、市民にゆとりと潤いのある生活や生物の貴重な生息の場などを提供しています。また、鳶尾山のハイキングコースは、市民や来訪者の健康づくりやレクリエーションの場となっています。しかしながら、三田地区や及川地区などの市街化調整区域の農地においては、開発等により田園景観が損なわれつつあります。
  このため、今後とも、この豊かな自然を保全し、未来に継承していくとともに、地域の活性化のための大切な資源として活用し、新たな魅力を創出していくことが必要です。
- 本地域の広い範囲が中津川、小鮎川及び荻野川の洪水浸水想定区域に指定されています。また、地域内には土砂災害の発生が想定される区域が点在しており、三田地区や棚沢地区の住宅地にも見られます。
  このため、自然と共存していくための災害への備えが必要です。

イ　住環境の維持・改善

- 本地域は、農地と住宅が混在する低層主体の住宅地、中心市街地に近く生活利便性の高い住宅地、商業施設が多く立ち並ぶ幹線道路沿いの市街地及び自然と調和した集落地など、異なる顔を持つ住宅地が形成されています。
  このため、地区の特性に合わせたきめ細かな取組による住環境の維持・改善が必要です。

ウ　交通環境の改善

- 県道 40 号（藤沢厚木）や市道妻田中荻野線のバス路線では、国道 246 号と合流する妻田付近で交通混雑が見られます。
  このため、交通混雑を緩和し、産業の活性化や市民等の快適な移動の確保のための取組が必要です。
- 路線バスなどの公共交通の利用が不便な地域も見られるため、高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが不自由なく移動できる交通環境づくりが必要です。
- 交通量が多く、歩道の整備が不十分な道路については、歩行者や自転車の安全を確保することが必要です。

エ（仮称）厚木北インターチェンジをいかしたまちづくり

- 計画されている（仮称）厚木北インターチェンジが整備されることにより、広域道路ネットワークの利便性が高まり、産業用地などの新たな開発需要の拡大が想定されます。
  このため、本地域では、広域的な道路ネットワークの優位性をいかし、周辺の自然環境との調和を図りながら、地域産業の活性化や、地域の活力が向上するためのまちづくりが必要です。

（４）睦合地域の基本目標

●水と緑に触れ合うゆとりある住環境を目指すまちづくり
・自然と調和した良好な集落地の保全
・身近に水と親しめる生活利便性の高い住宅地の形成
●誰もが快適に移動できる、利便性の高いまちづくり
・バス路線をいかした良好な市街地の形成
・日常生活を支える生活利便施設の充実
●水辺空間や身近な緑を大切にするまちづくり
・中津川、小鮎川、荻野川沿いの遊歩道や河川敷等を活用した親水空間の形成
・田園景観や鳶尾山周辺の緑地の保全と活用

（５）睦合地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 低層住宅地では、生活道路等の整備による安全の確保や生活利便性の確保により、良好な住環境を形成します。
- 国道 412 号沿道や、市道妻田中荻野線（旧国道 412 号）などのバス路線沿道では、沿道の商業地を維持し、周辺住宅地の生活を支える市街地を形成します。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。
- 隣接する荻野新宿地区と一体的に地域生活拠点の形成を図ります。
- 三田、棚沢及び及川地区などの市街化調整区域の集落地は、農地の保全を図りつつ、交通利便性・生活利便性の確保を図ります。

（イ）産業系用地

- （仮称）厚木北インターチェンジの整備推進により、棚沢地区などの既存企業の操業環境の維持・向上、経済活動の活性化を進めます。
- 妻田地区の住宅が多くを占める工業地域については、将来の方向を見定め、用途混在の防止を進めながら、土地利用の整序を目指します。

（ウ）土地利用検討ゾーン

- （仮称）厚木北インターチェンジ周辺の市街化調整区域は、北部拠点として計画的な土地利用を誘導するとともに、産業用地などの都市的な土地利用への転換だけでなく、自然環境との調和・連携を図り、農地を含む自然的な土地利用の活用など、地域特性に応じた土地利用の検討を進めます。

イ　交通利便性の向上

- 都市計画道路などの地域の骨格となる道路ネットワークの整備を推進し、交通混雑の緩和及び歩行者や自転車の安全性の確保を図ります。
- 環状道路の形成により、地域間の円滑な交通ネットワークの確保や広域的な交通体系の充実を図るため、（都）厚木環状２号線や（都）上今泉岡津古久線を整備するとともに、（都）座間荻野線の整備を促進します。
- （都）厚木環状１号線の構想路線について検討を進めます。
- 市道妻田中荻野線（旧国道 412 号）や県道 60 号（厚木清川）などの主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。
- 路線バスの利用が困難な地域や、日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

ウ　緑の保全・整備

- 中津川、小鮎川及び荻野川では、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する水辺環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化や歩行空間の確保を促進します。
- 鳶尾山周辺の森林は、豊かな自然環境や生態系を維持するための貴重な資源として保全するとともに、森林の魅力を満喫できる自然レクリエーションの場として活用します。また、斜面緑地においては、積極的な保全を進めます。
- 河川環境をいかし、本地域における市民の憩いや安らぎの場とレクリエーション拠点として、（仮称）睦合水辺公園の計画を進めます。
- 三田地区、棚沢地区及び及川地区などの河川沿いに広がる市街化調整区域の農地は、営農環境の維持・向上を進めながら、田園景観を保全するとともに、無秩序な農地転用が進みつつある地区においては、農地や自然環境との調和を図りながら、市民との協働による秩序ある土地利用の誘導に取り組みます。

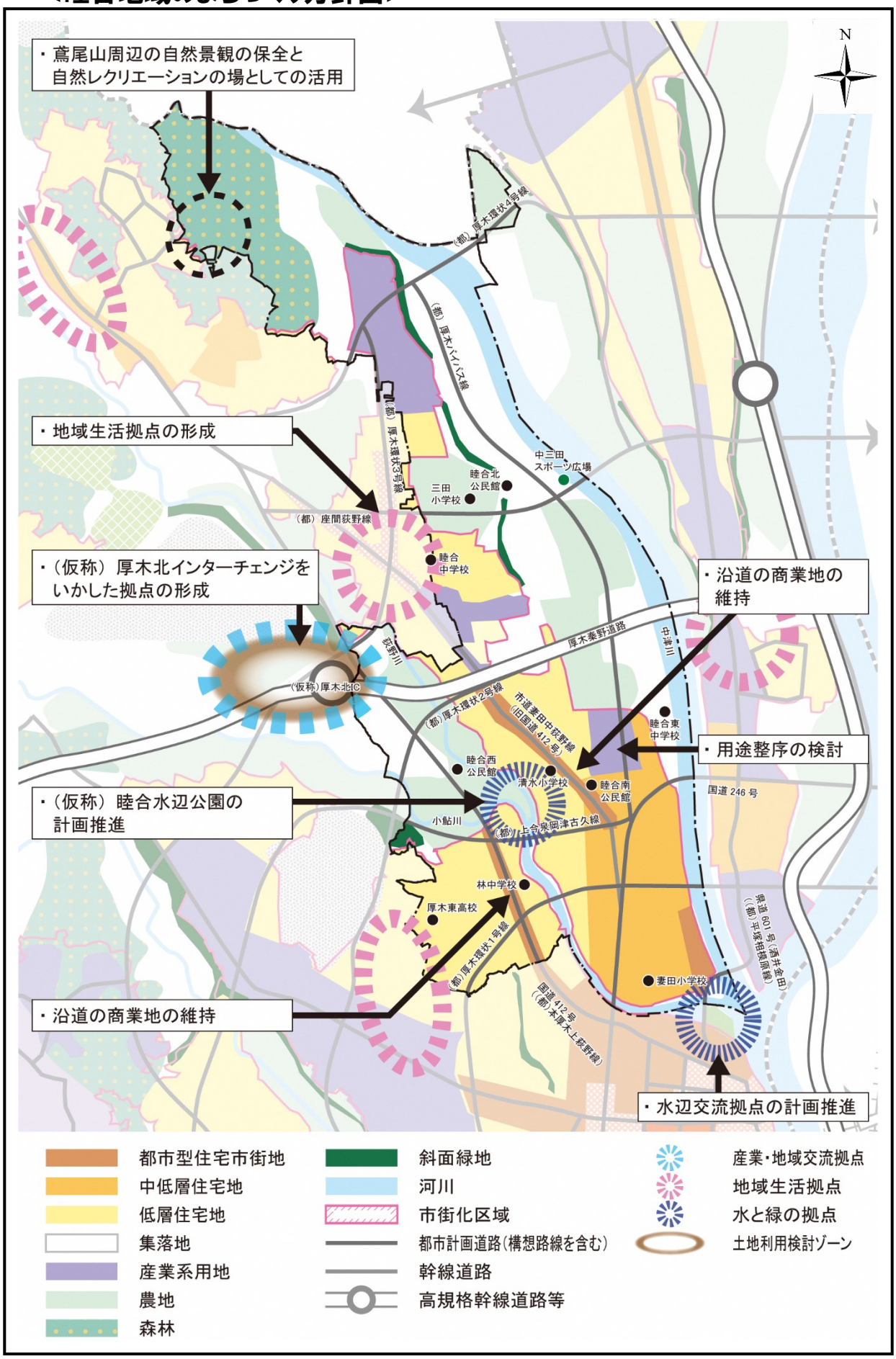
エ　災害に強いまちの形成

- 中津川、小鮎川及び荻野川では、自然災害に備えた計画的な治水事業を促進します。
- 土砂災害や洪水浸水等の災害の発生が想定される地区では、ハザードマップ等を活用し、市民に対して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。

オ　他の地域との連携

- （仮称）厚木北インターチェンジとの近接性や北部拠点の形成をいかしたまちづくりを進めます。

＜睦合地域のまちづくり方針図＞



４ 荻野地域（荻野地区）

（１）荻野地域の現状

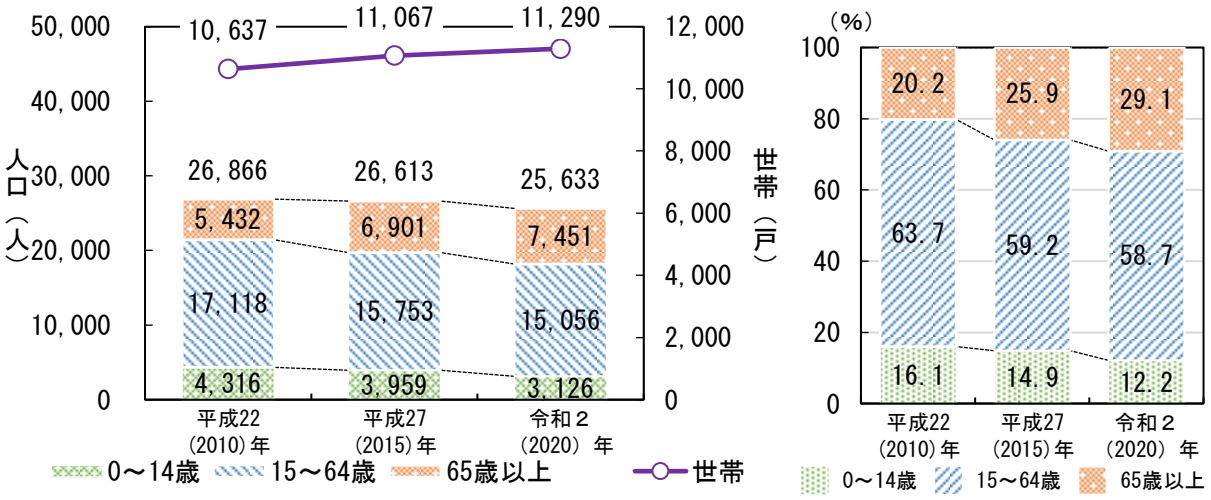
ア 地勢

- 本地域は、本市の北西部に位置し、地域の中央を荻野川が流れ、鳶尾山の森林などの豊かな自然環境に恵まれています。
- 江戸時代には、下荻野に荻野山中藩の陣屋が置かれ、また、荻野新宿は、大山街道の宿場町として栄えました。
- 荻野川などの河川沿いの広い範囲で、里地里山や田園景観と調和した集落地が形成されています。また、鳶尾、まつかげ台及びみはる野地区では宅地開発により、緑豊かで閑静な住宅市街地が形成されています。

イ 人口

- 本地域の人口は 25,633 人です。人口は減少傾向にありますが、世帯数は増加しています。
- 高齢化率は 29.1%と厚木市全体（25.8%）よりもやや高くなっており、特に、鳶尾及びまつかげ台地区は高齢化率が高く、約 40%となっています。
- みはる野地区は人口の増減は少なく、高齢化率も低くなっています。

■　荻野地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



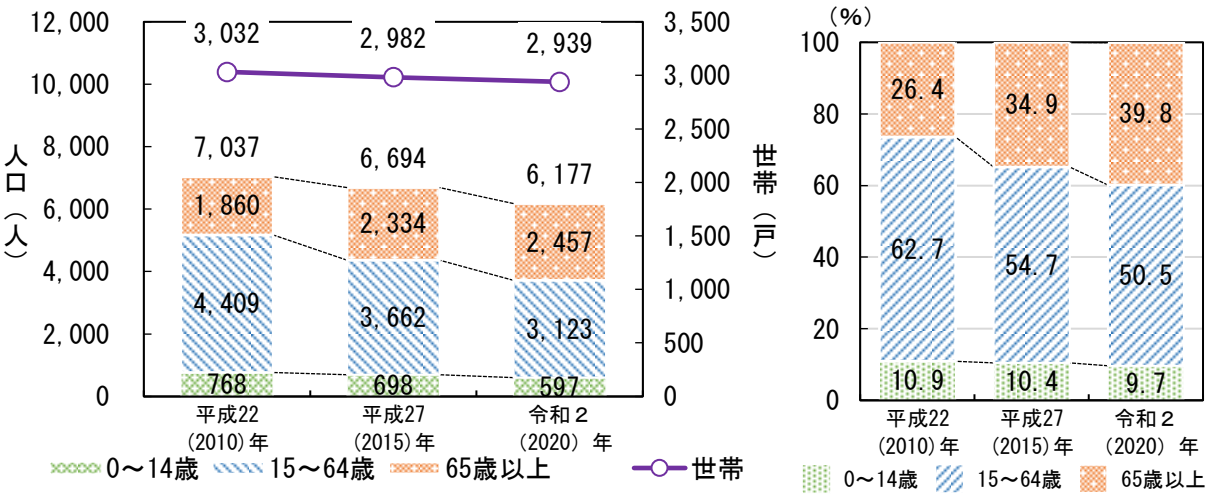
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　厚木市と荻野地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

		0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体		12.0%	62.2%	25.8%
荻野地域		12.2%	58.7%	29.1%
	鳶尾	9.7%	50.5%	39.8%
	まつかげ台	10.1%	46.3%	43.6%
	みはる野	18.0%	72.5%	9.5%

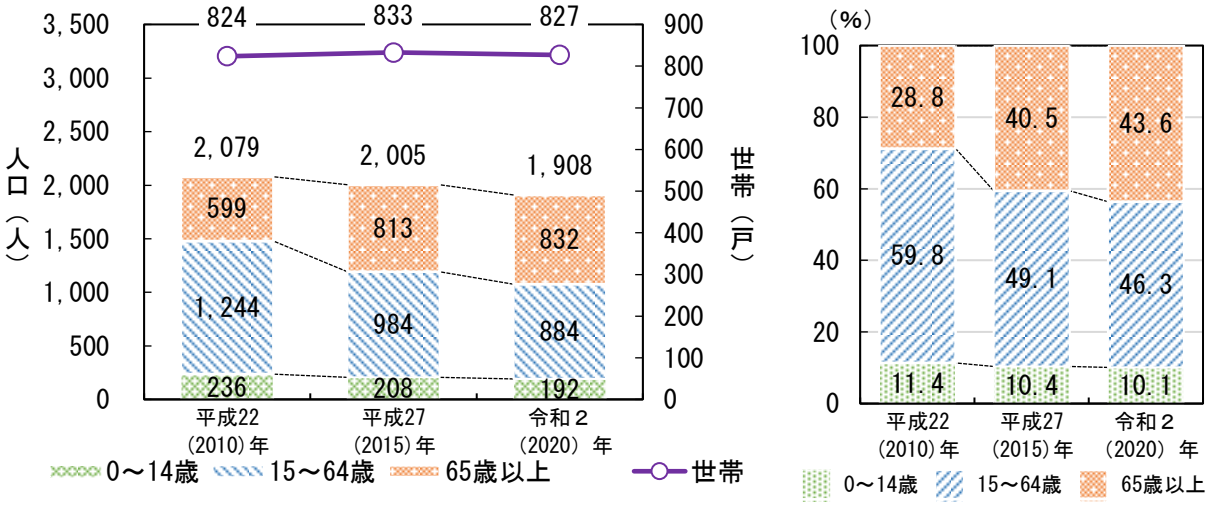
出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

■　鳶尾地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



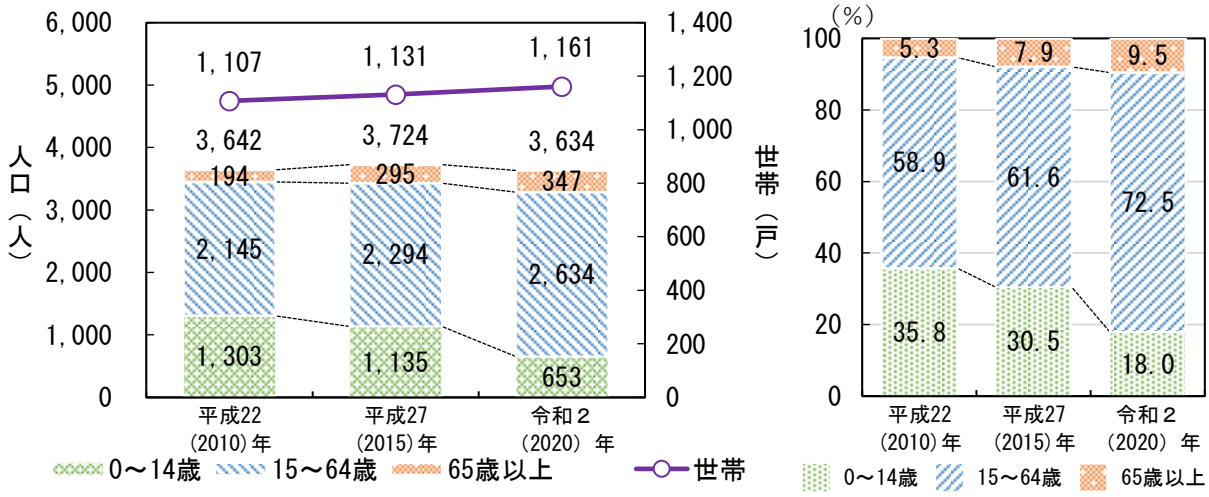
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　まつかげ台地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　みはる野地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）

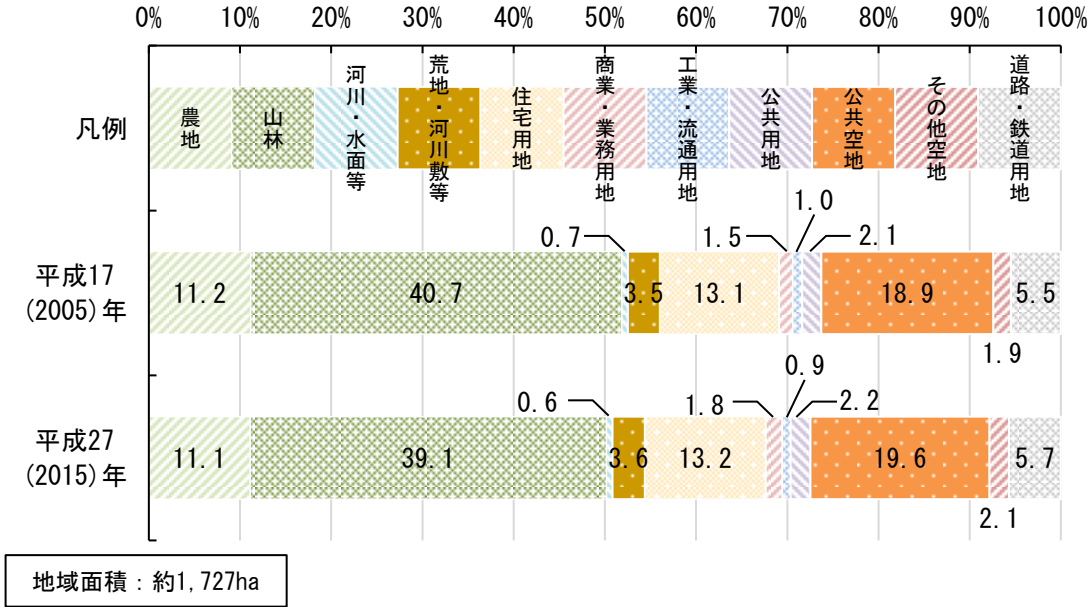


出典：住民基本台帳（各年 10 月）

ウ　土地利用

- 山林が地域の約４割を占めています。
- 荻野新宿周辺には、商業施設や公共施設などが集積しています。

■　土地利用構成比の推移



出典：都市計画基礎調査

（２）荻野地域の魅力

ア　豊かな自然環境

- 荻野川沿いには、広町公園など市民の憩いの場となる水辺空間が形成されています。
- 丹沢山地やその周辺の緑地、荻野川やそれに沿って形成されている田園景観など、豊かな自然環境を有しています。

イ　良好な住環境が形成された住宅地

- 上荻野地区などでは、ふるさとの原風景が残っており、豊かな自然環境と共生した集落地や里地里山景観が形成されています。
- 鳶尾、まつかげ台及びみはる野地区は、開発により整備された戸建住宅を主体とした、緑が身近に感じられる良好な住環境を持つ住宅団地が形成されています。

ウ　国道 412 号の充実したバス路線

- 国道 412 号及び妻田中荻野線では、１日 50 本以上の路線バスが運行されており、地域住民などの重要な移動手段となっています。

エ（仮称）厚木北インターチェンジに近接した立地特性

- 計画されている（仮称）厚木北インターチェンジの整備により、広域道路ネットワークの更なる拡大が期待されています。

（３）荻野地域の課題

ア　自然との共存・調和

- 本地域が有する豊かな自然は、市民のゆとりと潤いのある生活や生物の貴重な生息の場などを提供しています。また、鳶尾山のハイキングコースは、市民や来訪者の健康づくりやレジャー・レクリエーションの場となっています。
  このため、今後とも、この豊かな自然を保全し、未来に継承していくとともに、地域の活性化のための大切な資源として活用し、新たな魅力を創出していくことが必要です。
- 本地域では、荻野川沿いの地域が洪水浸水想定区域に指定されています。また、地域内には土砂災害の発生が想定される区域が点在しており、鳶尾、まつかげ台及びみはる野地区などの住宅地にも見られます。このため、自然と共存していくための災害への備えが必要となっています。

イ　住環境の維持・改善

- 本地域は、鳶尾、まつかげ台及びみはる野地区の開発により整備された住宅地、荻野新宿地区などの既存市街地及び荻野川沿いの自然や田園景観と調和した既存集落など、異なる顔を持つ住宅地が形成されています。
  このため、生活利便性の維持・向上など地区の特性に合わせたきめ細かな取組が必要です。

ウ　交通環境の改善

- 県道 63 号（相模原大磯）や荻野新宿交差点付近で交通混雑が見られます。
  このため、交通混雑を緩和し、市民の快適な移動の確保や産業の活性化が必要です。
- 路線バスなどの公共交通の利用が不便な地区や坂道等が多く、高齢者などの移動が困難な地区も見られるため、高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが不自由なく移動できる交通環境づくりも必要です。

エ（仮称）厚木北インターチェンジをいかしたまちづくり

- 計画されている（仮称）厚木北インターチェンジが整備されることにより、広域道路ネットワークの利便性が高まり、産業用地などの新たな開発需要の拡大が想定されます。
  このため、本地域では、広域的な道路ネットワークの優位性をいかし、周辺の自然環境との調和を図りながら、地域産業の活性化や、地域の活力が向上するためのまちづくりが必要です。

（４）荻野地域の基本目標

●丹沢山地や鳶尾山などの豊かな自然環境と調和するまちづくり
・自然と調和した良好な集落地の保全
・開発により整備された身近に緑がある住環境の保全
●自然と触れ合い健康で快適に暮らせるまちづくり
・健康・交流のみちなど自然を身近に感じられる環境の保全
・地域を支える地域生活拠点の形成と交通利便性の向上
●ふるさとを感じられるまちづくり
・里地里山景観の保全
・豊かな自然資源の保全とレジャー・レクリエーション拠点の形成

（５）荻野地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 上荻野地区などの市街化調整区域では、里地里山景観やゆとりある集落地を保全するとともに、交通利便性・生活利便性の確保や地域活力の維持・向上を図ります。
- 鳶尾、まつかげ台及びみはる野地区の開発により整備された住宅地では、ゆとりある戸建て住宅主体の良好な住環境の保全を促進するとともに、多様な世代の居住を促すよう、誰もが移動しやすく暮らしやすい市街地を形成します。
- 低層住宅地では、生活道路等の整備による安全の確保や生活利便性の確保により、良好な住環境を形成します。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。
- 多様なライフスタイル・ワークスタイルの実現により、若者世帯や子育て世帯の居住を促進し、多様な世代が居住・共生する住宅地を形成します。
- 鳶尾、まつかげ台及びみはる野地区周辺の国道 412 号沿道並びに荻野新宿交差点周辺では、地域生活拠点として周辺住宅地の生活を支える生活利便施設の立地を促進します。

イ　交通利便性の向上

- 厚木秦野道路の整備の進捗に併せて、交通混雑の緩和、地域間の円滑な交通ネットワークの確保及び広域的な交通体系の充実を図るため、（都）厚木環状３号線や（都）座間荻野線の整備を推進します。
- 荻野新宿交差点など妻田中荻野線の交通混雑の緩和を進めます。
- 国道 412 号、妻田中荻野線などの主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。

- 路線バスの利用が困難な地域や、日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

ウ　緑の保全・整備

- 荻野川では、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する水辺環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化や歩行空間の確保等を促進します。
- 農地・集落が分布する市街化調整区域では、営農環境の維持・向上を図りながら里地里山景観を保全します。
- 丹沢山地、鳶尾山及びその周辺の緑地は、豊かな自然環境や生態系を維持するため保全を図ります。
- 荻野運動公園では、未整備区域におけるスポーツ・レクリエーション機能の集積・拡充を進めるとともに、鳶尾山周辺の自然環境の保全と荻野運動公園を核とした緑とレジャー・レクリエーション拠点の形成を図ります。

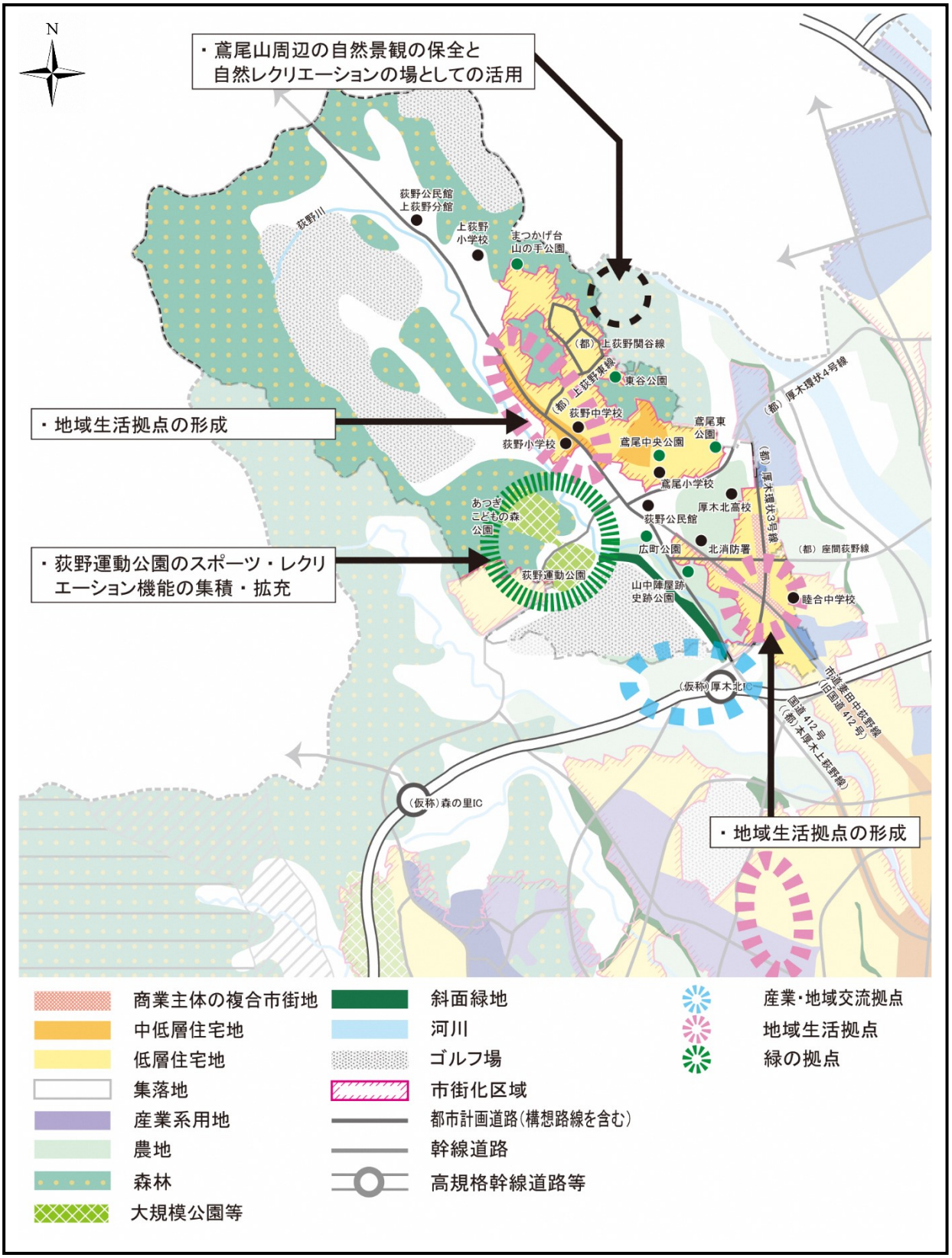
エ　災害に強いまちの形成

- 荻野川では、自然災害に備えた計画的な治水事業を促進します。
- 土砂災害警戒区域等に指定され、災害の発生が想定される鳶尾、まつかげ台及びみはる野地区等では、ハザードマップ等を活用し、市民に対して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。

オ　他の地域との連携

- （仮称）厚木北インターチェンジとの近接性や北部拠点の形成をいかしたまちづくりを進めます。

＜荻野地域のまちづくり方針図＞



5 小鮎地域（小鮎地区）

（1）小鮎地域の現状

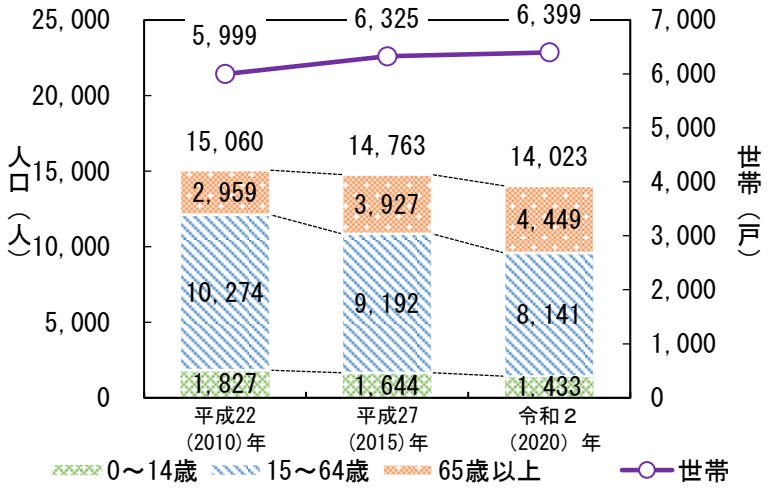
ア　地勢

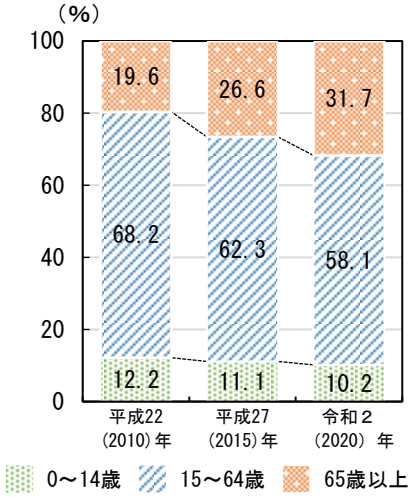
- 本地域は、本市の西部に位置し、小鮎川に沿った丘陵地や、尼寺原台地から成り、周辺には広大な森林地域を有しています。
- 飯山温泉郷、上古沢緑地及び飯山白山森林公園には、市内外から多くの人が訪れており、癒しの里としての特徴を有しています。
- 小鮎川などの河川沿いの広い範囲で、里地里山や田園景観と調和した集落地が形成されています。また、南毛利地域と隣接して、尼寺工業団地や住宅地が形成されています。

イ　人口

- 本地域の人口は、14,023 人です。人口は減少傾向にありますが、世帯数は増加傾向にあります。
- 高齢者の割合は 31.7%と、市平均（25.8%）よりも高くなっています。特に、宮の里地区は高齢者の割合が高く、41.0%となっています。

■　小鮎地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）





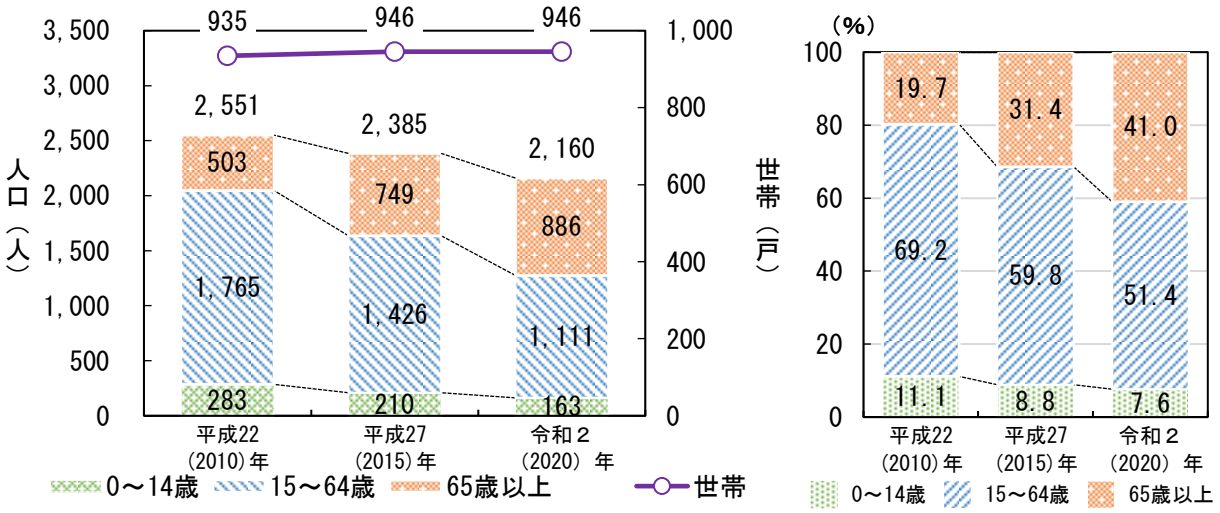
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　厚木市と小鮎地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

	0 ~14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体	12.0%	62.2%	25.8%
小鮎地域	10.2%	58.1%	31.7%
宮の里地区	7.6%	51.4%	41.0%

出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

■　宮の里地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）

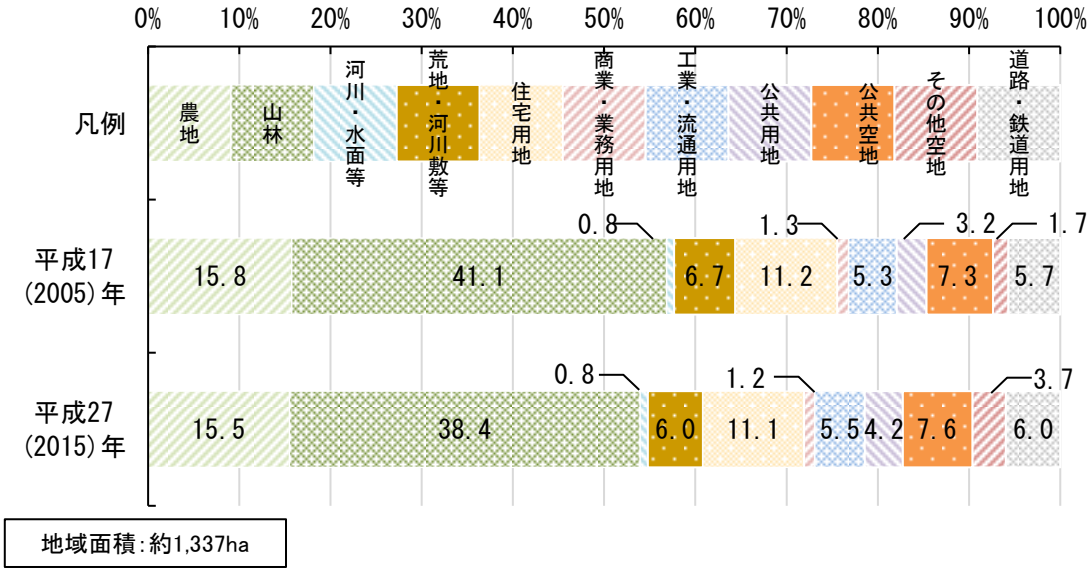


出典：住民基本台帳（各年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は、山林が地域の約４割を占めています。
- 小鮎川に沿って農地がまとまって見られるほか、丘陵地の斜面には良好な斜面緑地を形成しています。

■　**土地利用構成比の推移**



出典：都市計画基礎調査

（２）小鮎地域の魅力

ア　豊かな自然環境

- 小鮎川や恩曽川には、市民の憩いの場となる水辺空間が形成されています。
- 丹沢山地とその周辺の緑地、小鮎川や恩曽川、それらに沿って形成されている田園景観や斜面緑地などの豊かな自然環境を有しています。
- 飯山温泉郷、上古沢緑地及び飯山白山森林公園などの地域資源を有しており、豊かな自然環境をいかしたレクリエーションの場が形成されています。

イ　良好な住環境が形成された住宅地

- 小鮎川や恩曽川沿いには、豊かな自然環境と調和した集落地や里地里山景観が形成されています。
- 開発により整備された住宅団地などの戸建住宅を主体とした、良好な住環境を持つ住宅地が形成されています。

ウ　優れた産業の集積

- 尼寺工業団地には、多くの産業が集積しています。

エ　広域道路ネットワークの利便性の拡大が期待される立地特性

- 本地域内に計画されている（仮称）厚木北インターチェンジや（仮称）森の里インターチェンジが整備されることにより、広域道路ネットワークの更なる拡大が期待されます。

（３）小鮎地域の課題

ア　住環境の維持・改善

- 本地域は、開発により整備された住宅団地や河川沿い自然環境と調和した既存集落など、異なる顔を持つ住宅地が形成されています。
  このため、地区の特性に合わせたきめ細かな取組による住環境の維持・改善が必要です。

イ　交通環境の改善

- （都）尼寺原幹線や県道 60 号（厚木清川）は地域の主要なバス路線となっていますが、水引交差点など中心市街地に近づくにつれ、交通混雑が見られます。
  このため、交通混雑を緩和することで、市民等の快適な移動の確保や産業が活性化するための取組が必要です。
- 路線バスなどの公共交通の利用が不便な地区や坂道等が多く、高齢者などの移動が困難な地区も見られるため、高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが不自由なく移動できる交通環境づくりも必要です。

ウ　自然との共存・調和

- 本地域が有する豊かな自然は、市民のゆとりや潤いのある生活や生物の貴重な生息の場などを提供しているとともに、飯山温泉郷、飯山白山森林公園などは市民や来訪者のレクリエーションや余暇活動の場として利用されています。
  このため、今後とも、この豊かな自然を保全し、未来に継承していくとともに、地域の活性化のための大切な地域資源として活用し、新たな魅力を創出していくことが必要です。
- 本地域では、小鮎川や恩曽川沿いの地域が洪水浸水想定区域に指定されています。また、地域内には土砂災害の発生が想定される区域等が点在しており、宮の里地区の住宅地にも見られます。このため、自然と共存していくための災害への備えが必要となっています。

エ　広域的な道路ネットワークや地域資源をいかしたまちづくり

- 計画されている（仮称）厚木北インターチェンジ及び（仮称）森の里インターチェンジが整備されることにより、広域道路ネットワークの利便性が高まり、産業用地などの新たな開発需要の拡大や、飯山温泉郷、上古沢緑地、飯山白山森林公園などへの観光客の増加が期待されます。
  このため、広域的な道路ネットワークの優位性をいかし、周辺の自然環境との調和を図りながら、地域産業の活性化や、地域の活力が向上するためのまちづくりが必要です。

（４）小鮎地域の基本目標

●丹沢山地に連なる豊かな自然や水辺を感じるまちづくり
・里地里山や良好な集落地の保全と地域活力の向上
・飯山白山森林公園や周辺の自然と小鮎川、恩曽川の水辺空間の保全・活用
●移動のしやすさが確保された、利便性の高い活力あるまちづくり
・日常生活の交通利便性の向上
・周辺の緑と調和した、利便性の高い市街地の形成
●魅力ある地域資源をいかし、広域との交流を生み出すまちづくり
・周辺の自然環境と共存する新たな拠点の形成
・飯山温泉郷などの地域資源を活用したレクリエーション機能の充実

（５）小鮎地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 低層住宅地では、生活道路等の整備による安全の確保や生活利便性の確保により、良好な住環境を形成します。また、宮の里地区の住宅地では、周辺の自然と調和したゆとりある住環境を保全するとともに生活利便性の向上を図ります。
- 市街化調整区域では、里地里山景観や集落地を保全するとともに、交通利便性・生活利便性の確保や地域活力の維持・向上を図ります。
- 県道 60 号（厚木清川）沿道では、市街化調整区域の集落地の生活利便性を確保するため、生活利便施設の立地を促進します。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。
- 多様なライフスタイル・ワークスタイルの実現により、若者世帯や子育て世帯の居住を促進し、多様な世代が居住する住宅地を形成します。

（イ）北部拠点

- （仮称）厚木北インターチェンジ周辺では、広域的な道路ネットワークや、周辺の豊かな自然環境、飯山・七沢地区などの地域資源をいかした多様な産業が集積した、産業・地域交流拠点を形成します。

（ウ）産業系用地

- 森の里東土地区画整理事業により、隣接する森の里地区の既存の研究開発機能を補完するとともに、良好な研究開発地及び工業系産業地を主体とする森の里拠点を形成します。
- （仮称）厚木北インターチェンジ及び（仮称）森の里インターチェンジの整備推進により、尼寺工業団地などの既存企業の生産性の向上、経済活動の活性化を進めます。
- 尼寺工業団地の住宅と工業が混在している地域では、用途整序を検討するとともに、工場の緑化や緩衝緑地等の整備を促進します。

（エ）土地利用検討ゾーン

- （仮称）厚木北インターチェンジ周辺の市街化調整区域は、北部拠点として計画的な土地利用を誘導するとともに、産業用地などの都市的な土地利用への転換だけでなく、自然環境との調和・連携を図り、農地を含む自然的な土地利用の活用など、地域特性に応じた土地利用の検討を進めます。

イ　交通利便性の向上

- 都市計画道路などの地域の骨格となる道路ネットワークの整備を推進し、交通混雑の緩和及び歩行者や自転車の安全性の確保を図ります。
- 環状道路を形成し、地域間の円滑な交通ネットワークの確保や広域的な交通体系の充実を図るため、（都）厚木環状２号線や（都）厚木環状３号線、（都）上今泉岡津古久線の整備を推進します。
- 厚木秦野道路の整備進捗に合わせ、（仮称）森の里インターチェンジへの主要アクセス道路として、（都）尼寺原幹線、（都）船子飯山線の整備を推進します。
- （都）尼寺原幹線や県道 60 号（厚木清川）などの主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。
- 路線バスの利用が困難な地域や、日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

ウ　緑の保全・整備

- 小鮎川、恩曽川では、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化や歩行空間の確保等を進めます。
- 飯山白山森林公園とその周辺の緑地は、豊かな自然環境や生態系を維持するため保全を図るとともに、自然レクリエーションの場として活用します。また、斜面緑地の積極的な保全を進めます。
- 下古沢緑地は身近に自然に触れ合える都市緑地として整備を進めます。
- 小鮎川や恩曽川沿いに広がる農地は、営農環境の維持・向上を図りながら、田園景観を保全します。

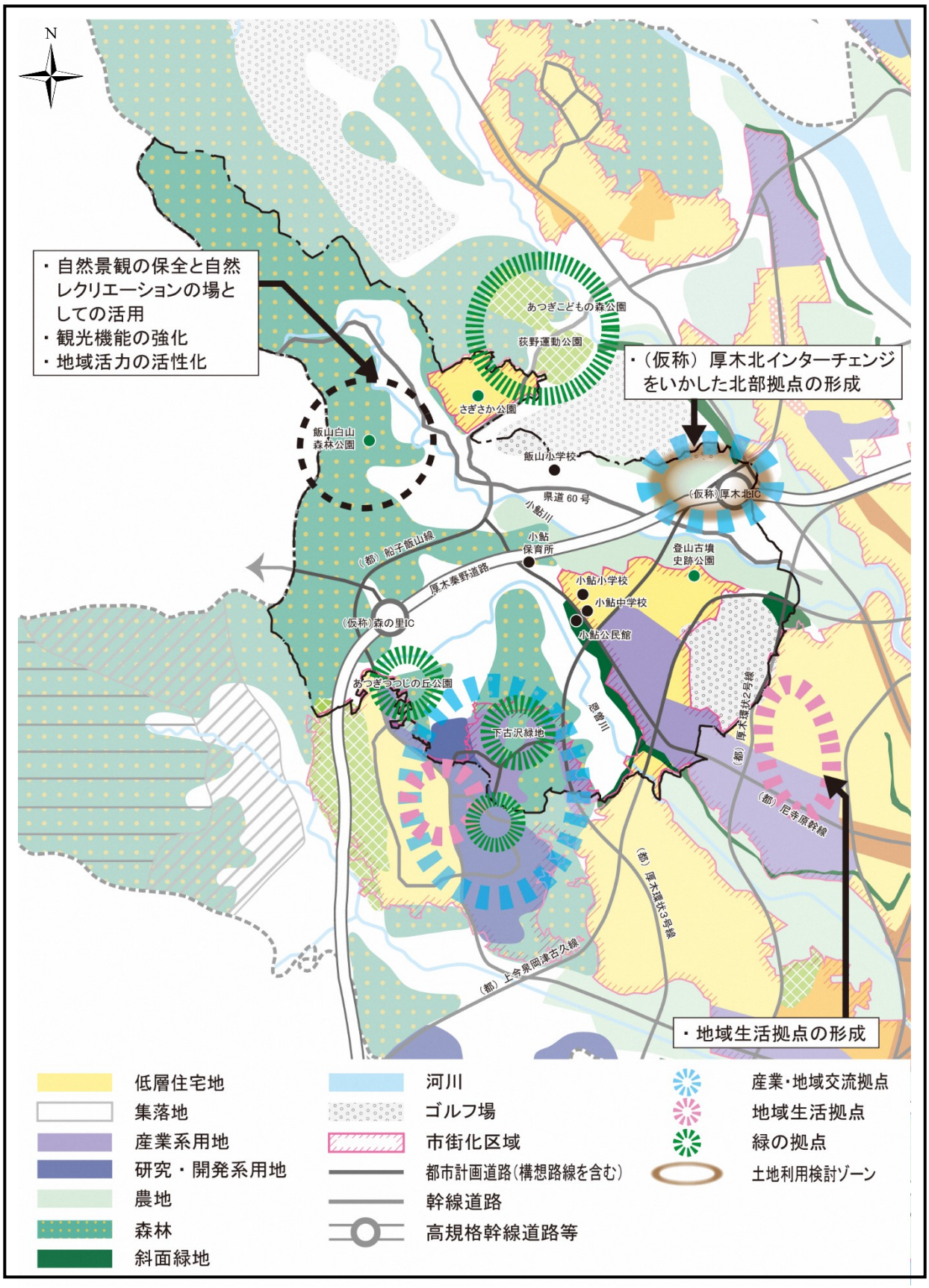
エ　災害に強いまちの形成

- 小鮎川や恩曽川では、自然災害に備えた計画的な治水事業を促進・推進します。
- 土砂災害や洪水浸水等の災害の発生が想定される地区では、ハザードマップ等を活用し、市民に対して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。

オ　観光地としての機能強化

- 飯山地区では、飯山温泉郷や飯山白山森林公園など周辺の豊かな自然環境の保全と活用によるレクリエーション機能の強化を進めます。

＜小鮎地域のまちづくり方針図＞



６ 南毛利地域（南毛利地区･緑ケ丘地区･南毛利南地区）

（１）南毛利地域の現状

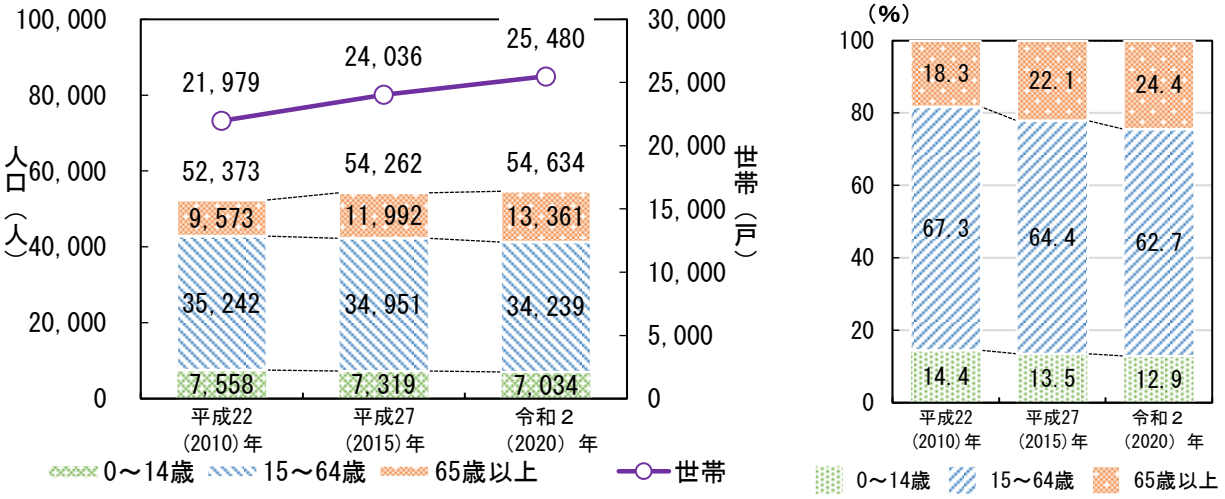
ア 地勢

- 本地域は、市の南西部に位置し、河川に沿って開けた平地、台地及び丘陵地を有しています。
- 尼寺原台地沿いの斜面緑地や、玉川、恩曽川とそれらの周辺に広がる一団の農地、高松山などの豊かな自然環境に恵まれています。
- 毛利台地区や緑ケ丘地区では、開発により住宅団地が形成されています。また、尼寺工業団地や長谷地区の一部には、産業の集積が見られます。

イ 人口

- 本地域の人口は 54,634 人です。人口、世帯ともに増加傾向にありますが、人口の増加率は鈍化しています。
- 高齢者の人口割合は 24.4%と市平均（25.8%）よりもやや低くなっています。
- 緑ケ丘地区の高齢者の人口割合は、34.4%と市平均（25.8%）よりも高く、年少人口は増加傾向にあります。

■ 南毛利地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



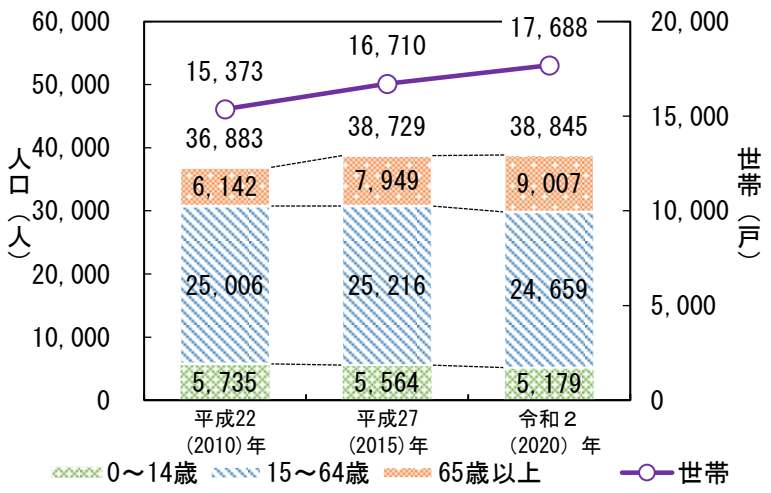
出典：住民基本台帳（各年 10 月）

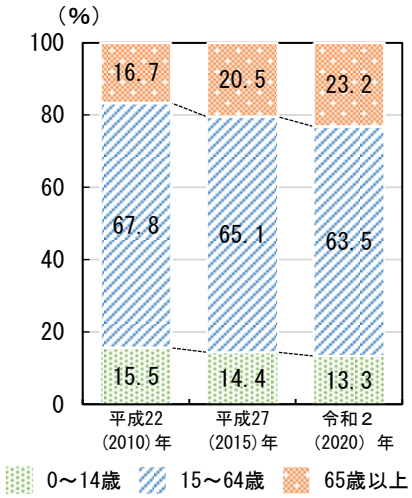
■ 厚木市と南毛利地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

		0 ~14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体		12.0%	62.2%	25.8%
南毛利地域		12.9%	62.7%	24.4%
	南毛利地区	13.3%	63.5%	23.2%
	緑ヶ丘地区	13.0%	52.6%	34.4%
	南毛利南地区	11.2%	64.0%	24.8%

出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

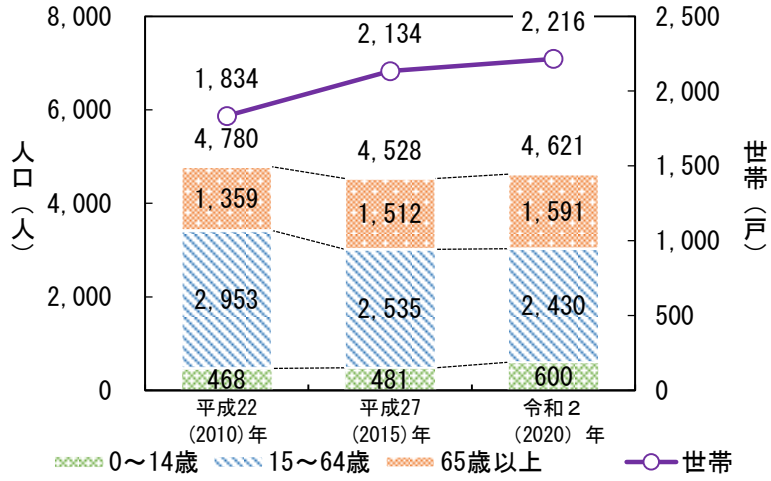
■　南毛利地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）

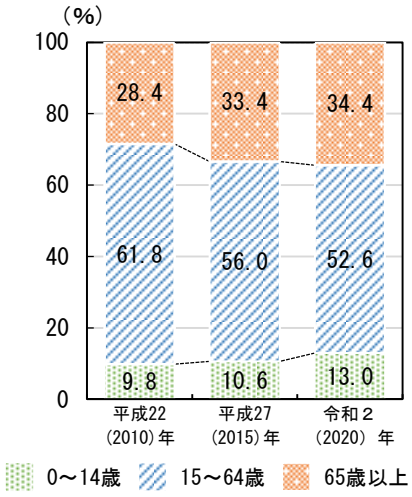




出典：住民基本台帳（各年 10 月）

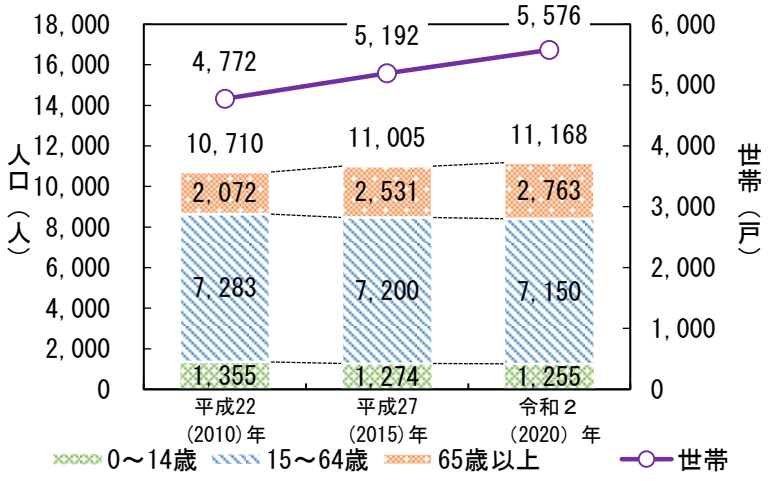
■　緑ケ丘地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）

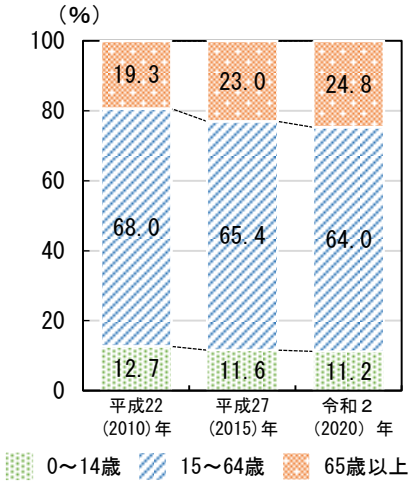




出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　南毛利南地区における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



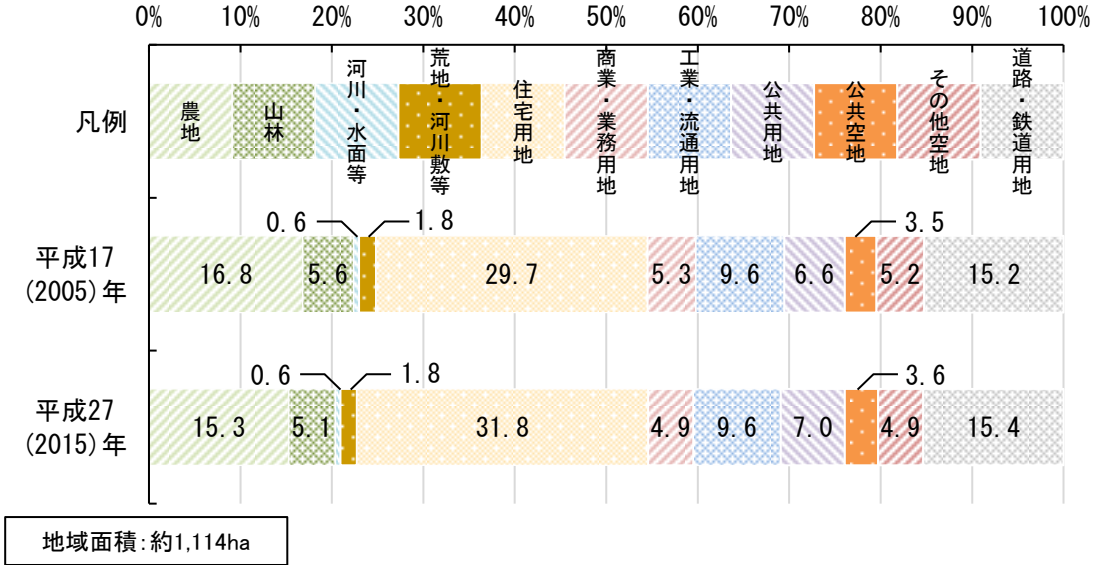


出典：住民基本台帳（各年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は、住宅用地が地域の約３割を占めています。また、農地・山林が約２割、工業・流通用地が約１割となっています。

■　土地利用構成比の推移



出典：都市計画基礎調査

（２）南毛利地域の魅力

ア　良好な住環境が形成された住宅団地

- 緑ケ丘地区、毛利台地区など開発により整備された良好な住環境を持つ住宅団地が形成されています。

イ　豊かな自然環境

- 玉川や恩曽川には、市民の憩いの場となる水辺空間が形成されています。
- 玉川、恩曽川に沿って形成されている田園景観や愛名緑地、小野緑地、高松山周辺の緑地など、豊かな自然環境を有しています。

ウ　交通結節点としての愛甲石田駅

- 愛甲石田駅は、通勤や通学のため、１日当たり約５万人の利用があります。また、駅から１日 100 本以上の路線バスが運行するなど、本市の重要な交通結節点となっています。

エ　優れた産業の集積

- 温水地区の尼寺工業団地や長谷地区の厚木流通センターなどに多くの産業が集積しているとともに、商業施設も集積しています。

オ　厚木インターチェンジや厚木南インターチェンジに近接した立地特性

- 本地域は、厚木西インターチェンジが配置され、また、厚木インターチェンジや厚木南インターチェンジに近接しており、広域道路ネットワークの利便性が高い地域です。

（３）南毛利地域の課題

ア　交通環境の改善

- 愛甲石田駅の北口駅前広場では、路線バス、自家用車及びタクシーが錯綜しているとともに、交通混雑が発生しています。
  このため、市民や働く人が利用しやすい交通環境の改善が必要です。
- （都）船子飯山線、（都）酒井長谷線、（都）尼寺原幹線などで交通混雑が見られます。
  このため、交通混雑を緩和することで、市民等の快適な移動の確保や産業が活性化するための取組が必要です。
- 路線バスなどの公共交通の利用が不便な地区や坂道等が多く、高齢者などの移動が困難な地区も見られるため、高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが不自由なく移動できる交通環境づくりも必要です。
- 通勤、通学時間帯には、生活道路をう回路として通行する車両が多いため、児童・生徒を含めた歩行者の安全を確保する必要があります。

イ　住環境の維持・改善

- 本地域は、緑ケ丘地区や毛利台地区など開発により整備された住宅地や国道 246 号など主要幹線道路沿いの商業施設と住宅地の複合市街地など地区によって性格が異なる住宅地が形成されています。
  このため、地区の特性に合わせたきめ細かな取組による住環境の維持・改善が必要です。
- 毛利台地区は高齢化率が高く、また、商業施設の撤退により、身近に買い物ができる施設が不足しています。
  このため、高齢者等が移動や買い物がしやすくなるよう、生活利便性を向上するための取組が必要です。

ウ　自然との共存・調和

- 本地域では、玉川や恩曽川沿いの地域が洪水浸水想定区域に指定されています。
  また、地域内には土砂災害の発生が想定される区域が点在しており、毛利台地区の住宅地にも見られます。このため、自然と共存していくための災害への備えが必要となっています。
- 愛甲石田駅周辺は、緑化重点地区に指定されており、行政や民間による新たな緑の創出が必要です。

エ　都市拠点としての魅力の向上

- 愛甲石田駅は市民や森の里拠点などへ通勤する人の交通結節点となっていますが、それらの人が交流する場や日常の買い物ができる施設が少ない状況です。
  このため、本市の都市拠点として、働く人が交流する場や市民の日常生活を支える施設の立地の誘導が必要です。

（４）南毛利地域の基本目標

●公共交通の利便性をいかした、暮らしやすいまちづくり
・尼寺原幹線や愛甲宮前交差点などの交通混雑の解消による交通利便性の向上
・地域を支える地域生活拠点の形成
●水と緑に触れ合う自然環境を大切にしたまちづくり
・玉川や恩曽川の水辺環境や周辺の田園景観の保全
●愛甲石田駅周辺に、人が集い、地域の活力が高まるまちづくり
・愛甲石田駅周辺の整備による魅力ある都市空間の形成
・愛甲石田駅周辺の交通環境の改善

（５）南毛利地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 低層住宅地では、生活道路等の整備による安全の確保や生活利便性の確保により、良好な住環境を形成します。緑ケ丘地区は中層住宅と低層住宅が調和した住環境を保全し、毛利台地区は戸建て住宅を主体とした良好な住環境を保全します。
- 地域生活拠点として周辺住宅地の生活を支える生活利便施設の立地を促進します。
- 国道 246 号の沿道では、都市中心拠点や都市拠点との近接性をいかし、商業施設等の立地と合わせ利便性の高い住宅地を形成します。
- 尼寺工業団地の住宅と工業が混在している地域では、用途整序を検討するとともに、工場の緑化や緩衝緑地等の整備を促進します。
- 緑ケ丘地区や戸室地区の公的住宅地では、建て替え等により、居住水準の向上、土地の有効利用を図るなど、計画的に良好な住宅地を形成します。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。
- 恩名・温水地区の整備方針の検討を進めます。

（イ）産業系用地

- 厚木インターチェンジ周辺から厚木南インターチェンジ周辺では、周辺環境との調和に配慮しながら、都市中心拠点、都市拠点及びツインシティとの近接性や広域道路ネットワークをいかした多様な産業が集積する南部産業拠点を形成します。
- 尼寺工業団地や長谷地区などの既存企業の操業環境の維持・向上を進めます。

（ウ）愛甲石田駅周辺（都市拠点）

- 産業・地域交流拠点に近接する地域特性をいかし、働く人の交流・滞留機能を高めるとともに、地域の生活を支える生活利便施設の誘導や、市街地再開発事業等により、商業・業務機能の充実した市街地を形成します。
- 周辺の産業・地域交流拠点の整備や都市拠点の形成等による利用者の増加が見込まれることから、駅舎の改修を促進するとともに、路線バス、タクシー及び自家用車の利便性やアクセス性の向上のため、北口駅前広場の拡張や愛甲宮前交差点の改良など、交通環境の改善を推進します。

（エ）土地利用検討ゾーン

- 南部産業拠点の市街化調整区域は、拠点の形成のため産業系の土地利用の誘導を図ります。また、長谷地区では、広域的な生活利便性の向上、雇用の創出、隣接する産業用地との連携及び周辺環境に配慮しながら、産業系の土地利用の誘導を図ります。
- 産業用地などの都市的な土地利用への転換だけでなく、自然環境との調和・連携を図り、農地を含む自然的な土地利用の活用など、地域特性に応じた土地利用の検討を進めます。

イ　交通利便性の向上

- 都市計画道路など地域の骨格となる道路ネットワークの整備を推進し、交通混雑の緩和及び歩行者や自転車の安全性の確保を図るとともに、生活道路をう回路として通行する車両の抑制を図ります。
- 環状道路を形成し、地域間の円滑な交通ネットワークの確保や広域的な交通体系の充実を図るため、（都）厚木環状２号線や（都）厚木環状３号線、（都）上今泉岡津古久線の整備を推進します。
- 厚木南インターチェンジへのアクセス性を高め、南部産業拠点への企業誘致を促進するため、（都）酒井長谷線の整備を推進します。
- （都）尼寺原幹線や（都）酒井長谷線など主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。
- 路線バスの利用が困難な地域や、日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。
- 小田急小田原線を挟んだ東西の移動のしやすさの確保を図ります。

ウ　緑の保全・整備

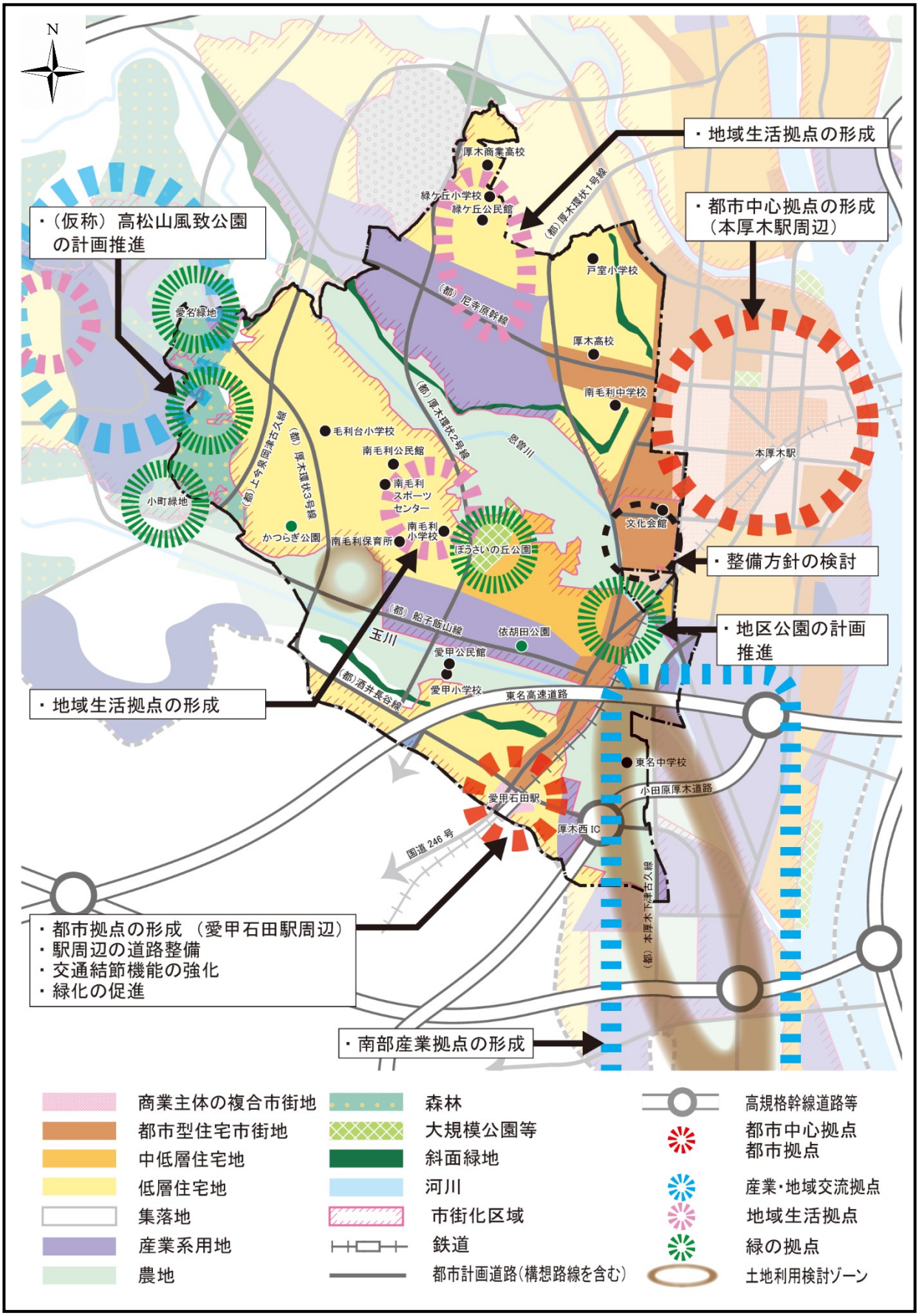
- 玉川、恩曽川では、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する水辺環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化や歩行空間の確保等を進めます。
- 玉川や恩曽川沿いに広がる農地は、営農環境の維持・向上を図りながら田園景観を保全します。

- （仮称）高松山風致公園や地区公園の計画を進めるとともに、斜面に残された樹林地は、市街地近傍の生物多様性の場として維持、保全に取り組みます。
- 愛甲石田駅周辺は、緑化重点地区として、市民、事業者、行政等が連携して緑化を進めます。

エ　災害に強いまちの形成

- 玉川や恩曽川では、自然災害に備えた計画的な治水事業を促進・推進します。
- 洪水浸水や土砂災害の発生が想定される地域では、被害軽減の対策を進めるハザードマップ等を活用し、市民に対して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。

＜南毛利地域のまちづくり方針図＞



７ 玉川地域（玉川地区）

（１）玉川地域の現状

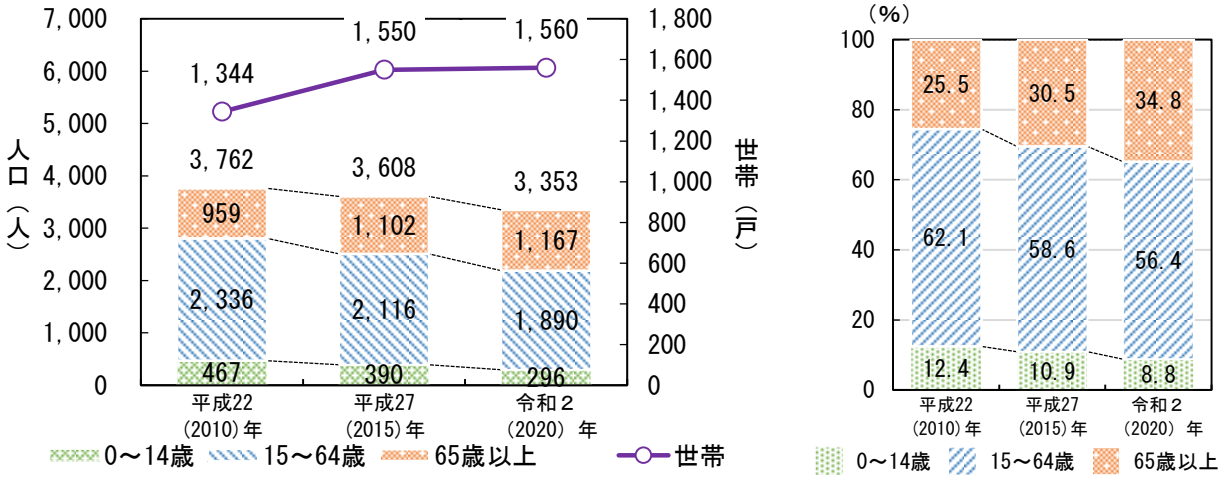
ア 地勢

- 本地域は、本市の西部に位置し、河川に沿って開けた平地、台地、山地及び丘陵地を有しています。
- 市内で最も豊富な自然資源に恵まれ、大山や鐘ヶ嶽に連なる西北部の山地は、丹沢大山国定公園や県立丹沢大山自然公園に指定されています。また、東丹沢七沢温泉郷を有し、観光地としての役割を担っています。
- 丹沢山地の自然と調和した集落地が形成されています。

イ 人口

- 本地域の人口は、3,353 人で、減少傾向にあります。また、９地域中で最も人口が少ない地域です。
- 本地域の高齢化率は 34.8%で市平均（25.8%）より高く、市内 15 地区の中で２番目に高くなっています。生産年齢人口の割合は 56.4%で市平均（62.2%）より低くなっています。

■ 玉川地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



出典：住民基本台帳（各年 10 月 ）

■ 厚木市と玉川地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

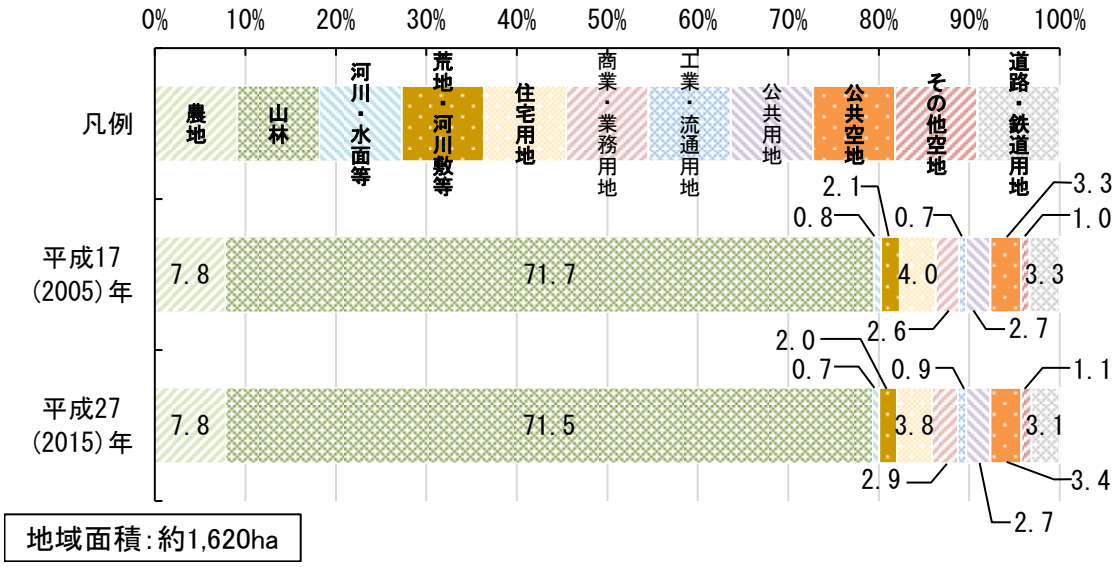
	0 ~14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体	12.0%	62.2%	25.8%
玉川地域	8.8%	56.4%	34.8%

出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は、約７割が山林となっており、農地が約１割です。

■　土地利用構成比の推移



出典：都市計画基礎調査

（２）玉川地域の魅力

ア　豊かな自然環境

- 丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園及び玉川とそれに沿って形成されている田園景観など、豊かな自然環境を有しています。
- 東丹沢七沢温泉郷や多数のハイキングコースなどを有しており、豊かな自然環境をいかしたレクリエーションの場が形成されています。

イ　豊かな自然環境と調和した住環境

- ふるさとの原風景が残っており、豊かな自然環境と共生した集落地や里地里山景観が形成されています。

ウ　広域道路ネットワークの利便性が高い立地特性

- 本市周辺に開通した伊勢原大山インターチェンジや、計画されている（仮称）森の里インターチェンジにより、市民等の広域への移動のしやすさ、広域からの観光客の増加が期待されています。

（３）玉川地域の課題

ア　自然との共存・調和

- 本地域が有する豊かな自然は、市民のゆとりや潤いのある生活や生物の貴重な生息の場などを提供しているとともに、東丹沢七沢温泉郷や丹沢大山国定公園は市民や来訪者のレクリエーションの場として利用されています。
  このため、今後とも、この豊かな自然を保全し、未来に継承していくとともに、地域の活性化のための大切な資源として活用し、新たな魅力を創出していくことが必要です。
- 本地域では、玉川沿いの地域が洪水浸水想定区域に指定されています。また、地域内には土砂災害の発生が想定される区域が点在しています。このため、自然と共存していくための災害への備えが必要となっています。

イ　住環境の維持・改善

- 本地域には自然と調和した集落地が形成されています。県道64号（伊勢原津久井）沿いにはコンビニエンスストア等は立地しているものの、生活利便施設は十分ではない状況です。
  このため、地区の特性に合わせたきめ細かな取組による住環境の維持・改善が必要です。

ウ　広域道路ネットワークや地域資源をいかしたまちづくり

- 本市周辺に開通した伊勢原大山インターチェンジや、計画されている（仮称）森の里インターチェンジにより、広域道路ネットワークの利便性が高まります。
  このため、広域的な道路ネットワークの優位性をいかし、市民の広域への移動のしやすさを向上させるとともに、本地域における東丹沢七沢温泉郷などの地域資源及びレクリエーション機能の強化等による地域の活性化などのまちづくりが必要です。

エ　交通環境の改善

- （都）船子飯山線や県道 64 号（伊勢原津久井）は、主要なバス路線となっていますが、小野橋付近や愛甲石田駅に近い愛甲宮前交差点などで交通混雑が発生しています。
  このため、交通混雑を緩和することで、市民等の快適な移動の確保や産業が活性化するための取組が必要です。
- 路線バスなどの公共交通の利用が不便な地区や坂道等が多く、高齢者などの移動が困難な地区も見られるため、高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが不自由なく移動できる交通環境づくりも必要です。

（４）玉川地域の基本目標

●豊かな自然環境と良好な住環境を目指したまちづくり
・自然と調和した集落地の形成
・若者や子育て世帯を始めとした多様な世代が暮らしやすい住環境の形成
●移動のしやすさが確保された、ゆとりある暮らしができるまちづくり
・公共交通の利便性の維持・向上と地域活力の向上
・日常生活を支える生活利便施設の誘導
●地域の新しい魅力を創造し広域から人が集まるまちづくり
・東丹沢七沢温泉郷や豊かな自然を活用したレクリエーション機能の強化

（５）玉川地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 里地里山景観やゆとりある集落地を保全するとともに、交通利便性・生活利便性の確保や地域活力の維持・向上を図ります。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。
- 多様なライフスタイル・ワークスタイルの実現により、若者世帯や子育て世帯など、多様な世代が居住する住宅地を形成します。

（イ）産業系用地

- 広域道路ネットワークをいかした産業の集積や既存企業の操業環境の維持・向上に向けた取組を進めます。

イ　交通利便性の向上

- 地域間の円滑な交通ネットワークの確保や伊勢原大山インターチェンジへのアクセス性向上など広域的な交通体系の充実を図るため、（都）上今泉岡津古久線の整備を推進します。
- 主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。
- 路線バスの利用が困難な地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

ウ　緑の保全・整備

- 玉川は、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する水辺環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化や歩行空間の確保等を進めます。
- 玉川沿いに広がる農地は、営農環境の維持・向上を図りながら田園景観を保全します。

- 丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園などは、本市の豊かな自然環境や生態系を維持するための重要な資源として保全を図るとともに、森林の魅力を満喫できる自然レクリエーションの場として活用します。

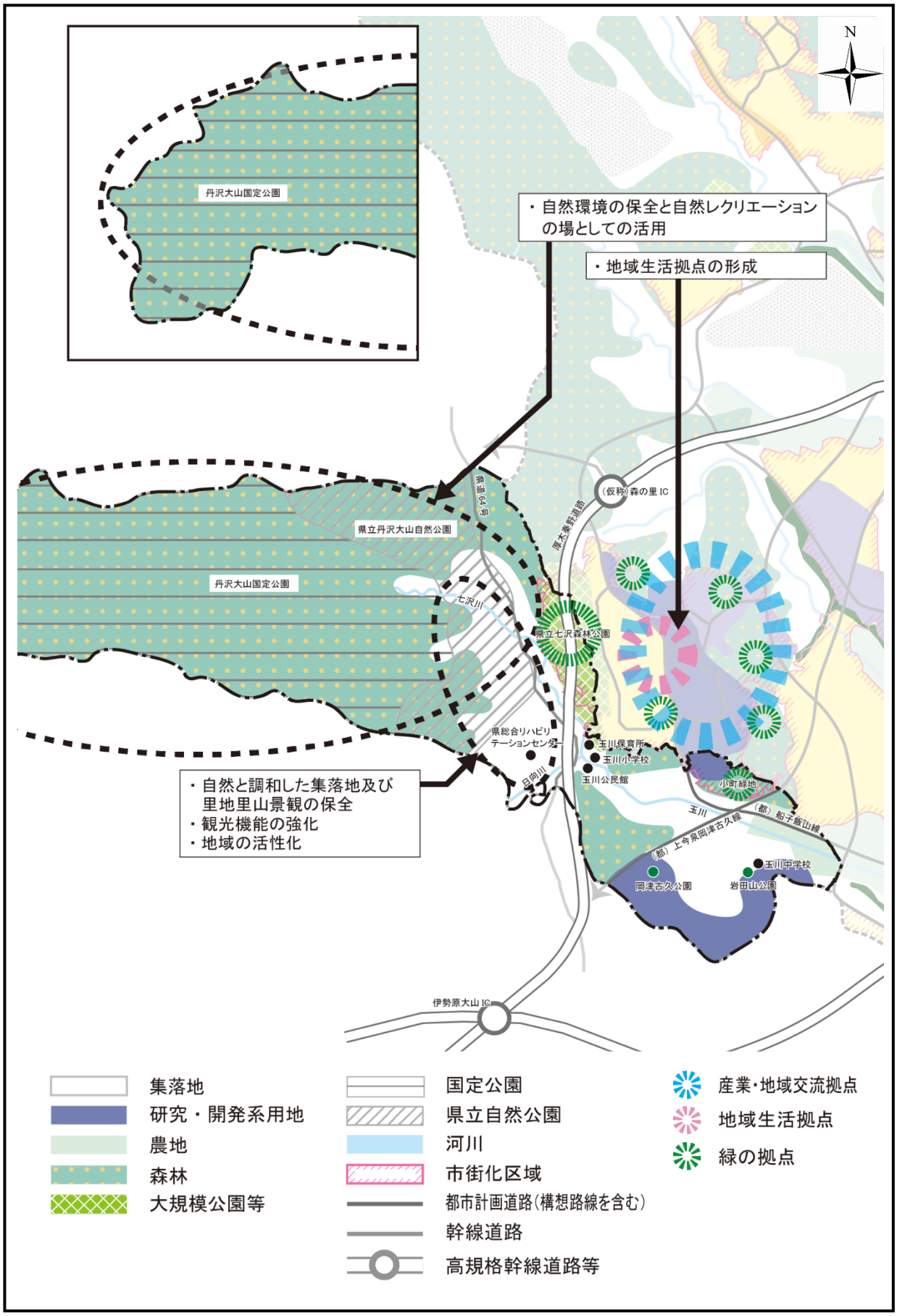
エ　災害に強いまちの形成

- 玉川では、自然災害に備えた計画的な治水事業を促進します。
- 洪水浸水や土砂災害等の発生が想定される地域では、ハザードマップ等を活用し、市民に対して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。

オ　観光機能の強化

- 東丹沢七沢温泉郷周辺の里地里山景観を保全するとともに、森林や温泉などを効果的に活用することで、心と身体の健康維持・増進を図るなどレクリエーション機能の強化を進めます。

＜玉川地域のまちづくり方針図＞



８ 森の里地域（森の里地区）

（１）森の里地域の現状

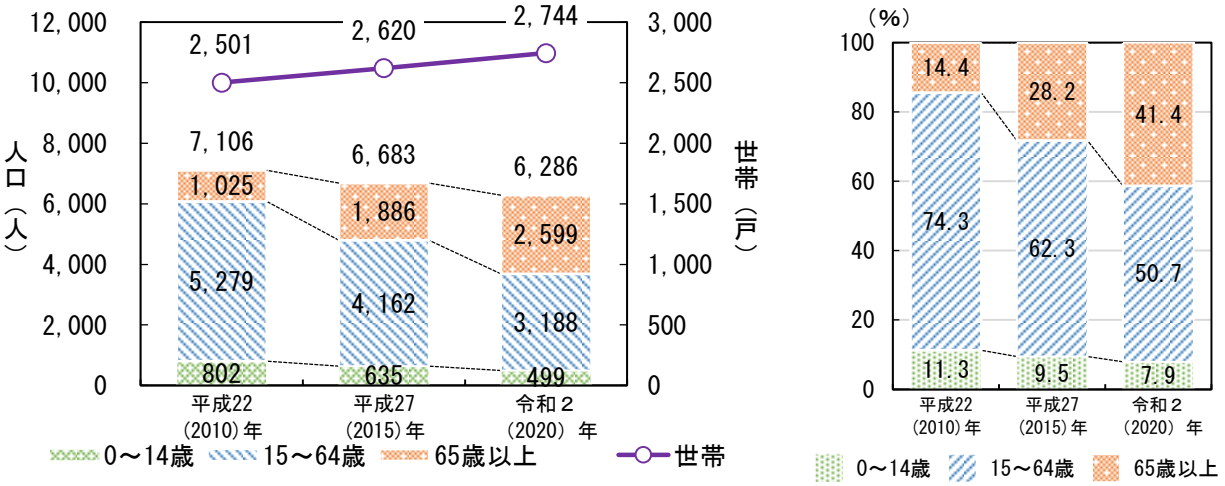
ア　地勢

- 本地域は、本市の西部に位置し、昭和 55（1980）年から平成２（1990）年にかけて土地区画整理事業により整備され、緑豊かで良好な住環境と公害のない知識集約型の施設として先端技術に係わる研究所や大学・高校を誘致し、「住む・働く・学ぶ・憩う」という四つの機能を持つ複合都市を形成してきました。
- 地域の西側には、県立七沢森林公園が位置し、レクリエーションの場として市内外から多くの人が訪れています。

イ　人口

- 本地域の人口は、6,286 人です。人口は減少傾向にありますが、世帯数は増加しています。
- 本地域の高齢化率は 41.4%と市平均（25.8%）より高くなっており、年少人口、生産年齢人口の割合は市内で最も低く、老年人口の割合は最も高くなっています。

■　森の里地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　厚木市と森の里地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

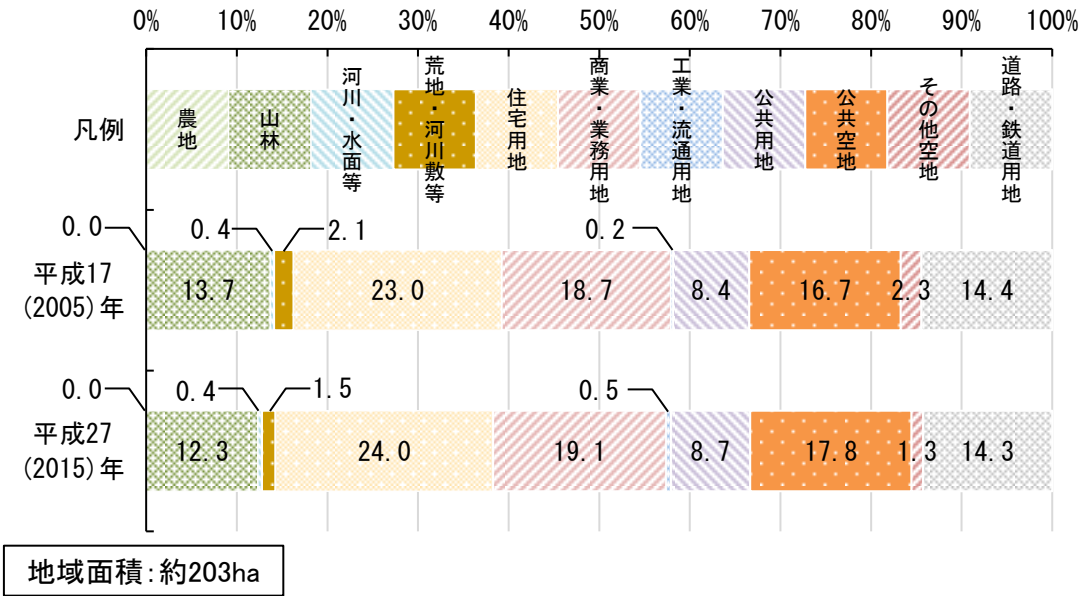
	0 ~14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体	12.0%	62.2%	25.8%
森の里地域	7.9%	50.7%	41.4%

出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は、地域の約４分の１が住宅用地であり、次いで商業・業務用地、公共空地がそれぞれ約２割となっています。

■　**土地利用構成比の推移**



出典：都市計画基礎調査

（２）森の里地域の魅力

ア　豊かな自然環境と調和した住環境

- 本地域には、開発により整備された住宅地や地域住民の憩いの場となる若宮公園が配置された、良好な住環境を持つ市街地が形成されています。

イ　先端技術産業が集積した産業拠点

- 学園施設や研究開発を主体とした産業が集積した、本市を代表する自然と調和した複合市街地が形成されています。さらには、森の里東土地区画整理事業により研究開発及び工業系を主体とする産業系市街地の形成が進められています。

ウ　広域道路ネットワークの利便性が高い立地特性

- 本地域は、本市周辺に開通した伊勢原大山インターチェンジや、計画されている（仮称）森の里インターチェンジにより、市民等の広域への移動のしやすさ、広域からの観光客の増加及び産業の集積が期待されています。

（３）森の里地域の課題

ア　自然との共存・調和

- 本地域が有する県立七沢森林公園の豊かな自然は、市民のゆとりや潤いのある生活、生物の貴重な生息の場などを提供しているとともに、市民や来訪者のレクリエーションの場として利用されています。
  このため、今後とも、この豊かな自然を保全し、未来に継承していくとともに、地域の活性化のための大切な資源として活用していくことが必要となっています。
- 本地域には土砂災害の発生が想定される区域が点在しています。
  このため、自然と共存していくための災害への備えが必要となっています。

イ　住環境の維持・改善

- 本地域には緑豊かな住宅地と産業地が集積した複合市街地が形成されており、今後、森の里東土地区画整理事業の進展により産業系市街地の形成が進みます。
  このため、住環境と操業環境の調和を図り、今ある安全で静かな住環境を保全する必要があります。
- 住宅地は幹線道路からやや離れた立地であるため、将来的に生活利便施設の維持が求められます。

ウ　広域道路ネットワークをいかしたまちづくり

- 本市周辺に開通した伊勢原大山インターチェンジや、計画されている（仮称）森の里インターチェンジにより、広域道路ネットワークの利便性が高まります。
  このため、広域的な道路ネットワークの優位性をいかし、市民の広域への移動のしやすさを向上させるとともに、森の里拠点における操業環境の向上及び産業の集積が必要となってきています。

エ　交通環境の改善

- 愛甲石田駅や本厚木駅に向かう主要バス路線では、１日 100 本以上の路線バスが運行されていますが、小野橋周辺や愛甲石田駅周辺の愛甲宮前交差点などで交通混雑が見られます。
  このため、交通混雑を緩和することで、市民等の快適な移動の確保や産業が活性化するための取組が必要となっています。
- 路線バスの利用が困難な地域や日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

（４）森の里地域の基本目標

●身近な緑を大切にするまちづくり
・身近な緑に触れ合える住環境の保全
・森の里地区を取り囲む豊かな自然環境の保全・活用

●誰もが移動しやすい、安心して暮らせるまちづくり
・日常生活の交通利便性の向上
・若者や子育て世帯に選ばれる安全で静かな住環境の形成

●先端技術産業が集積した産業拠点づくり
・学園・研究都市として研究開発を主体とした産業の集積
・周辺の自然環境と調和した産業拠点の形成

（５）森の里地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 生活利便施設の維持･誘導により、周辺住宅地の生活を支える地域生活拠点を形成します。
- 職住の近接や、多様なライフスタイル・ワークスタイルの実現により、若者や子育て世帯に選ばれる住宅地を形成します。
- 住宅地では、交通利便性の向上を図るとともに、地区計画や建築協定による敷地の細分化の抑制や緑化の推進等を促進し、安全でゆとりある静かな住環境を保全します。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。

（イ）森の里拠点

- 森の里拠点の既存の産業系用地では、学園･研究都市として研究開発を主体とした産業系市街地を形成するとともに、周辺の自然環境や住環境と調和した本市を代表する複合的な市街地を形成します。
- 森の里東土地区画整理事業が実施されている小鮎地区と連携し、森の里地区のイメージを更に発展させる魅力ある市街地を形成します。

イ　交通利便性の向上

- 厚木秦野道路の整備進捗に合わせ、（仮称）森の里インターチェンジへの主要アクセス道路として（都）船子飯山線の整備計画を進めます。
- （都）船子飯山線などの主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。
- 日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

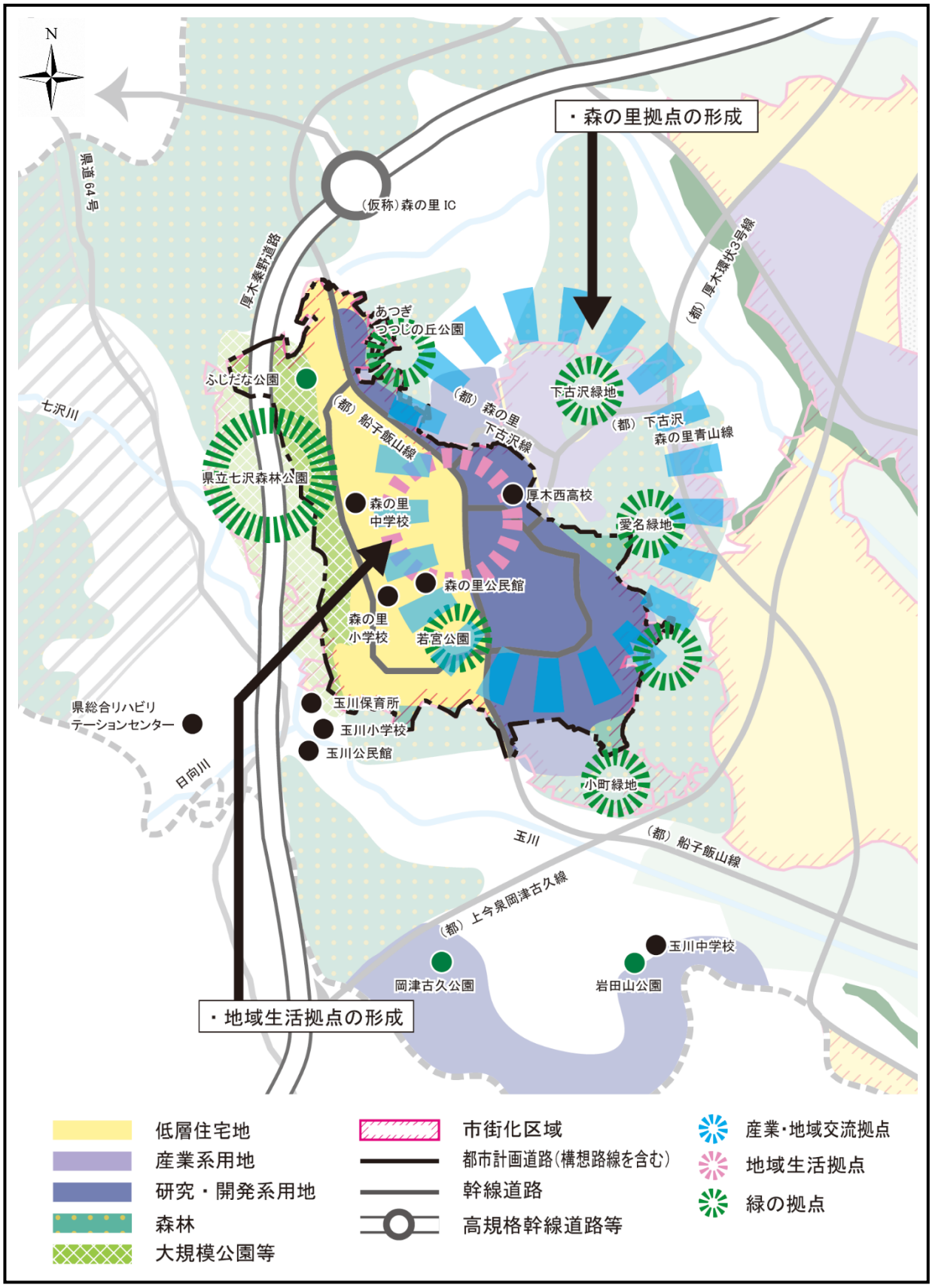
ウ　緑の保全・整備

- 地区計画、建築協定及び産業地の緑化協力の推進等により民有地の緑化を促進します。
- 県立七沢森林公園は、本市の豊かな自然環境や生態系を維持するための重要な資源として保全を図るとともに、森林の魅力を満喫できる自然レクリエーションの場として活用します。

エ　災害に強いまちの形成

- 土砂災害の発生が想定される地区では、ハザードマップ等を活用し、市民に対して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を推進します。

＜森の里地域のまちづくり方針図＞



９ 相川地域（相川地区）

（１）相川地域の現状

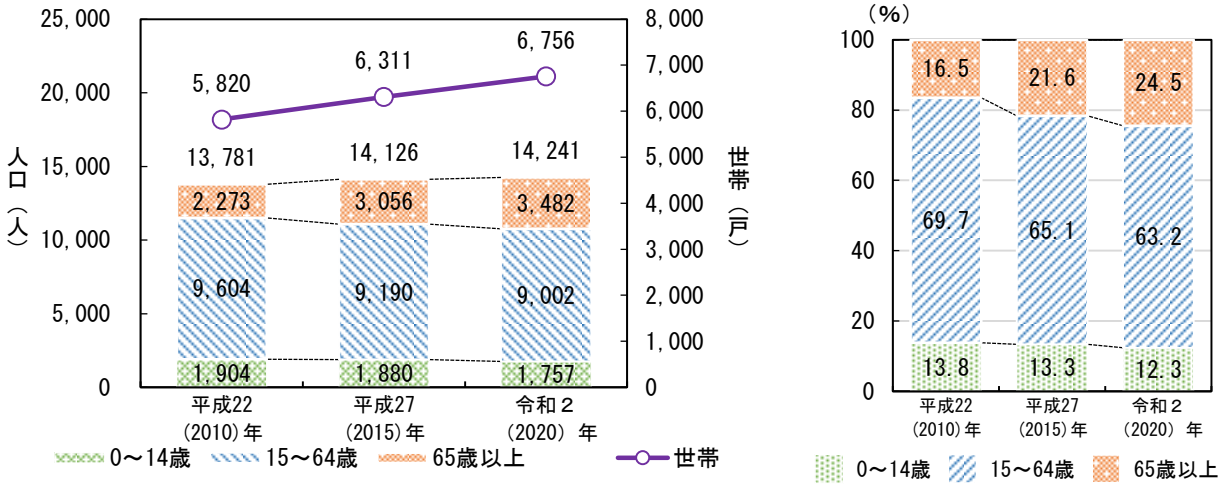
ア 地勢

- 本地域は、本市の南部に位置し、相模川とその周辺に広がる一団の農地が自然環境を創出しています。
- 東名高速道路、新東名高速道路及び国道 129 号が縦横に走り、本市の南の玄関口となる地域です。
- 市道厚木戸田線の沿線に、住宅地が形成されてきました。また、東名高速道路厚木インターチェンジの周辺では、業務・流通系機能を主体とした産業系市街地の整備が進められてきました。

イ 人口

- 本地域の人口は 14,241 人です。人口、世帯数は増加傾向にありますが、人口の増加率は鈍化しています。
- 高齢者は増えていますが、高齢化率は 24.5%と市平均（25.8%）よりもやや低くなっています。

■　相川地域における人口・世帯の推移図（左）と年齢３区分別人口構成比の推移（右）



出典：住民基本台帳（各年 10 月）

■　厚木市と相川地域の年齢３区分別人口構成比（令和２年）

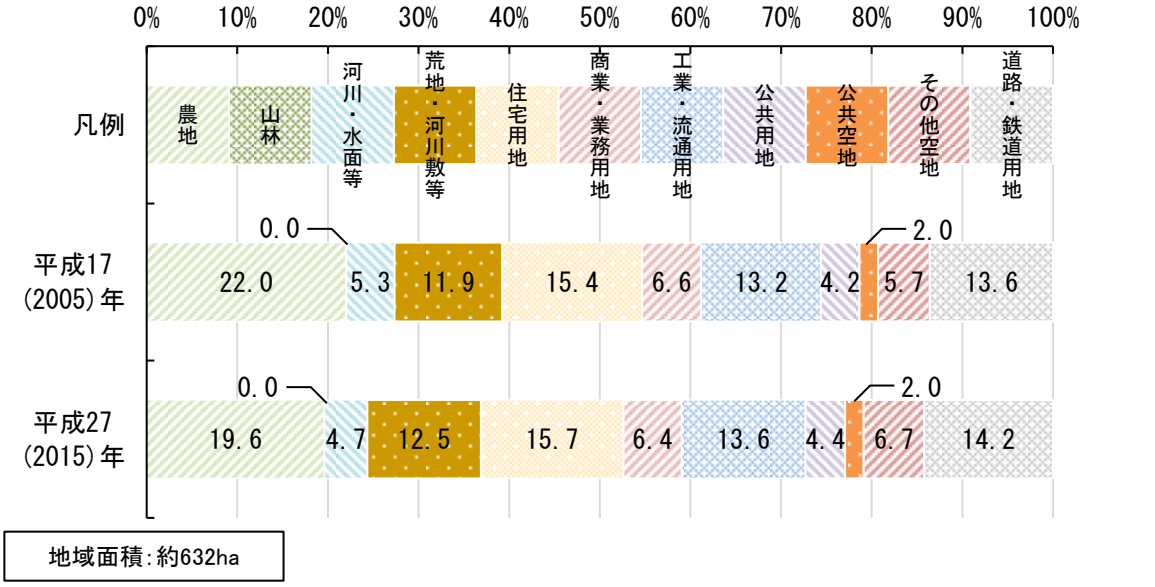
	0 ~14 歳	15～64 歳	65 歳以上
厚木市全体	12.0%	62.2%	25.8%
相川地域	12.3%	63.2%	24.5%

出典：住民基本台帳（令和２年 10 月）

ウ　土地利用

- 土地利用は農地が地域の約２割を占めていますが、住宅用地、工業・流通用地などの都市的土地利用が、インターチェンジ周辺などの市街化区域に多く見られます。

■　土地利用構成比の推移



出典：都市計画基礎調査

（２）相川地域の魅力

ア　広域道路ネットワークの利便性が高く、ツインシティに近接した立地特性

- 地域内には、厚木インターチェンジや厚木南インターチェンジが配置されており、広域道路ネットワークの利便性が高い地域となっています。また、東海道新幹線新駅整備地区周辺に計画されているツインシティにも近接していることから、地域の活性化が期待されています。
- 厚木インターチェンジ周辺には、商業・業務・流通系機能等が集積しています。
- 酒井土地区画整理事業により、道路整備や産業集積が計画されています。

イ　良好な住環境が形成された住宅地

- 市街化調整区域には、田園景観と調和した集落地が形成されています。
- 市道厚木戸田線沿道などでは、戸建て住宅主体の良好な住環境が形成されています。

ウ　市道厚木戸田線の充実したバス路線

- 市道厚木戸田線では、１日 100 本程度の路線バスが運行されており、地域住民などの貴重な移動手段となっています。

エ　豊かな自然環境

- 本地域には相模川や玉川が流れており、市民の憩いの場となる水辺空間や緑豊かな景観が形成されています。

（３）相川地域の課題

ア　厚木インターチェンジや厚木南インターチェンジ等をいかしたまちづくり

- 本地域は、厚木インターチェンジ、厚木南インターチェンジが配置されているとともに、東海道新幹線新駅整備地区周辺のツインシティ（平塚市）が近接しています。さらには、都市中心拠点（本厚木駅）や都市拠点（愛甲石田駅）へのアクセス性が良く、本市の中でも優れた広域交通環境を有していることから、産業用地などの更なる開発需要の拡大が想定されます。
  このため、本地域では、この立地優位性をいかし、周辺の自然環境との調和を図りながら、産業の集積や地域産業の活性化、地域の活力が向上するためのまちづくりが必要です。

イ　住環境の維持・改善

- 本地域は、地域西側の戸建て中心の住宅地や東側の中低層住宅地、田園景観と調和した集落地など異なる顔を持つ住宅地が形成されています。
  このため、地区の特性に合わせたきめ細かな取組による住環境の維持・改善が必要です。

ウ　交通環境の改善

- 市道厚木戸田線では、１日 100 本以上の路線バスが運行されておりますが、公共交通利用が不便な地域も見られるため、高齢者や障がい者、子どもなど、誰もが不自由なく移動できる交通環境づくりも必要です。
- 南部産業拠点には多くの企業が集積していますが、交通混雑等により沿道環境の低下が想定されているため、産業系用地等における交通環境の改善が必要です。

エ　自然との共存・調和

- 相模川の豊かな自然は、市民のゆとりと潤いのある生活や生物の貴重な生息の場などを提供しています。
  このため、今後とも、この豊かな自然を保全し、未来に継承していくとともに、この自然をいかした市街地の形成が必要です。
- 本地域の広い範囲が相模川の洪水浸水想定区域に含まれていることから、自然と共存していくための災害への備えが必要です。
- 東名厚木インターチェンジ周辺は、緑化重点地区に指定されており、行政や民間による新たな緑の創出が必要です。

（４）相川地域の基本目標

●誰もが快適に移動でき、暮らしやすいまちづくり
・路線バスの利便性が高い市街地の形成
・日常生活を支える生活利便施設の充実
●厚木の南の玄関口として産業が集積した活力あるまちづくり
・広域交通の利便性をいかした産業の集積による南部産業拠点の形成
・産業を支える道路ネットワークの形成と周辺都市との広域的な連携の強化
●水と緑に触れ合えるまちづくり
・相模川や玉川沿いの自然環境の保全と活用

（５）相川地域のまちづくりの方針

ア　適切な土地利用の誘導

（ア）住宅地

- 相模川沿いの住宅地では、生活利便施設の立地促進と水と親しめる空間を考慮した環境の良い中低層主体の住宅地を形成します。
- 西部の低層住宅地では、生活道路等の整備による安全確保や生活利便性の確保に配慮した住宅地を形成します。
- 良好な住環境を保全するため、空き地・空き家対策を進めます。

（イ）南部産業拠点

- 厚木インターチェンジ周辺から厚木南インターチェンジ周辺では、広域道路ネットワークをいかすとともに、都市中心拠点や都市拠点、ツインシティに近接する優位性をいかし、周辺の住環境や農業と調和した製造業や商業・業務・流通系機能等を主体とした産業系の市街地を形成します。
- 岡田地区や長沼地区など産業が集積している地区では、用途整序や地区計画の活用等により既存企業の操業環境の維持・向上を図ります。
- 工場の緑化や緩衝緑地等の整備を促進し、周辺の住環境と調和した産業・地域交流拠点を形成します。
- 生活利便施設の維持・誘導により、周辺住宅地の生活を支える地域生活拠点を形成します。

（ウ）土地利用検討ゾーン

- 厚木インターチェンジ周辺から厚木南インターチェンジ周辺の市街化調整区域は、南部産業拠点として産業系の土地利用の誘導を図るとともに、産業用地などの都市的な土地利用への転換だけなく、自然環境との調和・連携を図り、農地を含む自然的な土地利用の活用など、地域特性に応じた土地利用の検討を進めます。

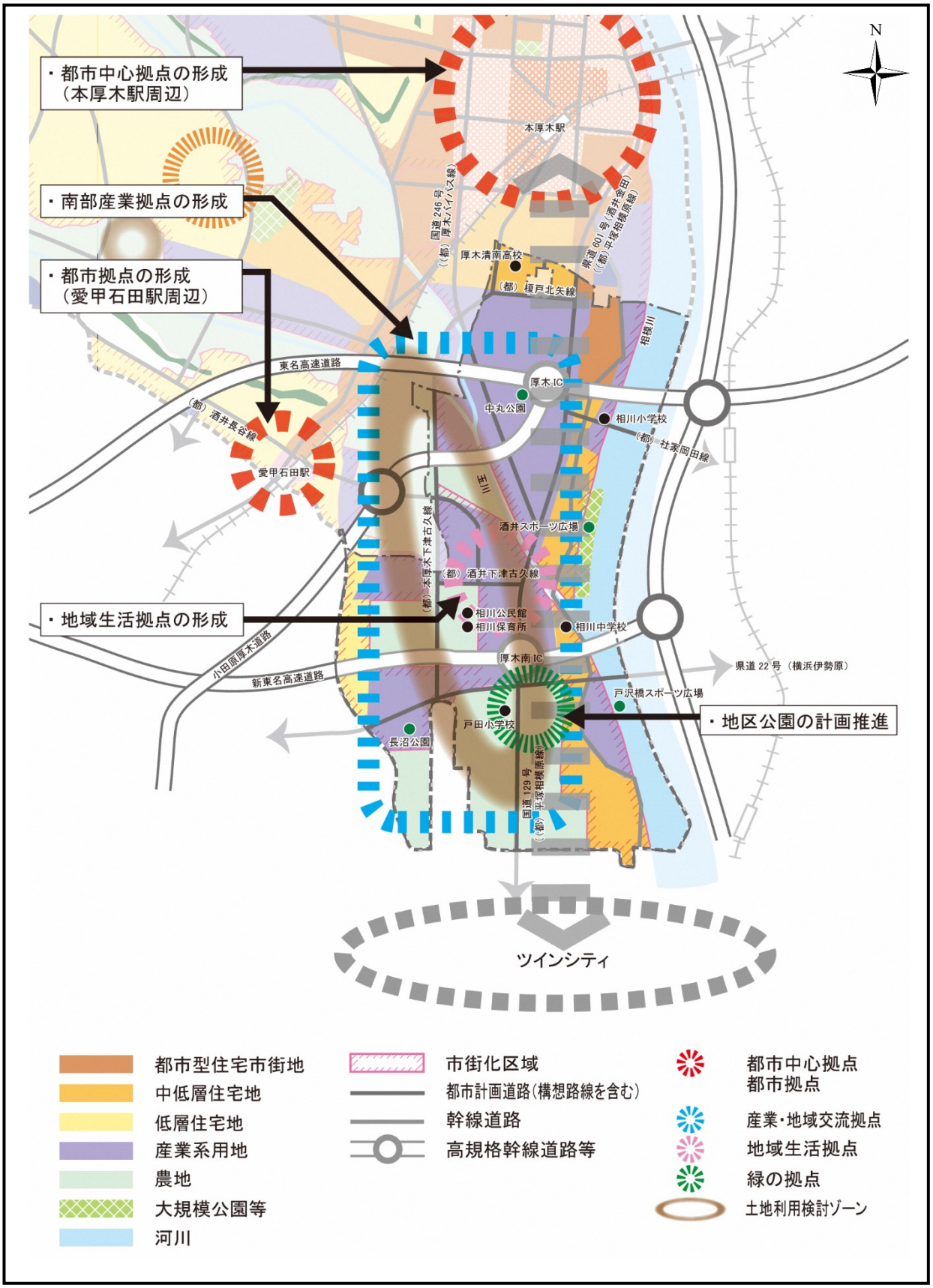
イ　交通利便性の向上

- 都市計画道路など地域の骨格となる道路ネットワークの整備を推進し、交通混雑の緩和及び歩行者や自転車の安全性の確保を図ります。
- 厚木南インターチェンジへのアクセス性の向上や南部産業拠点への企業誘致の促進を図るため、（都）本厚木下津古久線、（都）酒井長谷線及び（都）酒井下津古久線の整備を推進します。
- 広域的な道路網の強化や沿道環境の低下を回避するため、県道 22 号（横浜伊勢原）の拡幅等を促進します。
- ツインシティ整備計画の進捗に合わせた新たな公共交通システムの検討を促進します。
- 市道厚木戸田線などの主要バス路線では、輸送力や定時性、速達性などの機能を強化します。
- 路線バスの利用が困難な地域や、日常生活の移動に不便を感じている市民の移動手段を確保するため、地域の実態に合わせたコミュニティ交通の導入に向けた取組を進めます。

ウ　緑の保全・整備

- 相模川、玉川では、市民が親しみ、多様な水生生物等が生息する環境の保全を促進します。また、河川沿いの道路等の緑化、歩行空間の確保等を促進します。
- 厚木インターチェンジ周辺は、緑化重点地区として、市民、事業者、行政等が連携して緑化を進めます。
- 厚木南インターチェンジ周辺に地区公園の計画を進めます。

エ　災害に強いまちの形成

- 相模川、玉川では、自然災害に備えた計画的な治水事業を促進します。
- 洪水浸水等の災害の発生が想定される地区では、ハザードマップ等を活用し、市民に対して災害リスクや避難方法などの周知を図るとともに、協働による防災・減災対策を進めます。

＜相川地域のまちづくり方針図＞